高教研年報

第 61 号

令 和 3 年 度

新潟県高等学校教育研究会

巻頭言

令和３年度高教研年報の刊行によせて

新潟県高等学校教育研究会会長
（新潟県立新潟南高等学校長）
勝 山　宏 子

新潟県高等学校教育研究会は、新潟県の高等学校教育を振興発展させることを目的として昭和 23 年(1948 年)に設立され、永きにわたり本県の後期中等教育に携わる教職員の研究・研修活動の一端を担ってまいりました。例年であれば、この目的を達成するため、16 の部会において調査研究、研究協議会・講習会・講演会・展覧会等の開催、研究誌・機関紙の発行等が滞りなく行われるはずでありました。

しかしながら、今年度も新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、年度初めの理事会を文書による審議とさせていただいたほか、各部会の研修計画にも様々な制限がかかり、思うように進めることができない事態となりました。各部会におかれましては、こうした厳しい状況の中、様々な工夫をしていただき、事業の充実に努めていただきました。このことに改めて感謝申し上げるとともに、このコロナ禍が早期に収束を迎え、以前のように活発に活動ができるようになりますことを強く願います。

一方で、今年度は新潟県高等学校教育研究会の歴史に新たな１ページが加わる出来事がありました。それは「情報部会」の設立です。社会の情勢としてＩＣＴが活用できる人材の育成が求められています。高等学校においては、教科「情報」がその育成の大きな役割を担うわけですが、これから益々授業内容の充実が必要となります。また、来年度の入学生が受験することになる令和７年度大学入学共通テストでは、教科「情報」が出題教科となることが正式に決定され、質の高い教育内容の保障が必要となります。情報部会の初代会長をお務めいただく柏崎高等学校吉川校長様はじめ、情報部会の役員の先生方の御尽力に心から敬意を表しますとともに、新年度からは１７の部会体制で新潟県高等学校教育研究会の活動が益々充実していくことを期待しております。

さて、今年度も、各部会共通目標として以下の２つを掲げました。

1　全ての生徒が共通に身に付けるべき資質・能力の育成　＜共通性の確保＞

2　多様な学習ニーズへのきめ細やかな対応　＜多様化への対応＞

これらについては、今後も引き続き当会の研修目標の柱として受け継いでいきたいと考えております。

来年度もこれまで各部会で取り組んでいただいてきた主体的・対話的で深い学びに向けた研修を継続・発展させるとともに、授業における ICT の活用についても、研修テーマとして積極的に取り組む必要があると考えております。当会が新潟県の高等学校教員による教育研究の場として、益々実り大きいものとなるよう運営してまいりますので、会員の皆様におかれましては、これからも引き続き御協力を賜りますようお願い申し上げます。

巻頭言「令和３年度高教研年報の発刊によせて」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・会長　勝山　宏子

令和３年度各部会事業報告

１　国　　語・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１

２　地理歴史・公民・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２

３　数　　学・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３

４　理　　科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４

５　芸　　術・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　６

６　英　　語・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１０

７　農　　業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１１

８　工　　業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１９

９　商　　業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２６

１０　水　　産・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２８

１１　家庭科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２９

１２　保健体育・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３２

１３　生徒指導・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３３

１４　図　　書・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３４

１５　視聴覚・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３５

１６　定　　通・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３６

〈研究会一覧〉・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３７

令和３年度　理事会（書面審議）録　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　７７

令和３年度　活動から・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　８２

令和３年度　収入支出決算書・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　８３

令和３年度　役員・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　８５

（　理事・会計監査委員・　委員・部会幹事および部会会員数・事務局幹事　）

新潟県高等学校教育研究会規約・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　８８

令和３年度事務局日誌抄・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　９２

編集後記　幹事・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　９３

国語部会

1　運営委員会

令和３年６月４日(金)第１回運営委員会は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、書面審議としました。内容は令和２年度の事業報告、決算報告、令和３年度の事業計画と全県研究協議会について審議しました。全県研究協議会は、オンライン研修会として、具体的な実施方法を検討することにしました。12 名の役員、地区委員から書面審議の回答があり、審議内容が承認されました。

令和４年１月 25 日(火)第２回運営委員会も新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、書面審議としました。内容は令和３年度の事業報告、決算報告、令和４年度の事業計画について審議しました。12 名の役員、地区委員から書面審議の回答があり審議内容が承認されました。

2　全県研究協議会準備委員会

(1)　日時　令和３年９月 13 日(月)14:00～

(2)　会場　県立巻高等学校　校長室

(3)　内容　全県研究協議会の運営方針

(4)　指導　県立教育センター指導主事
　　近藤　崇　様

(5)　参加者　国語部会役員５名

3　全県研究協議会

(1)　日時　令和３年 11 月 30 日（火）13:00～

(2)　形態　オンラインによる全県研究協議会
　　（主会場　県立巻高等学校）

(3)　参加者　46 名

(4)　テーマ「思考力・判断力・表現力の育成を目指した授業改善と新学習指導要領における国語科目等の対応について」

(5)　実践発表
　　新潟高等学校　帆苅　智子　教諭
　　「説話教材における対話的で深い学び～国語総合(古典)「貴族の教養の重要性」の指導を通して～」

(6)　指導講評
　　県立教育センター指導主事　近藤崇　様

(7)　講演
　　新潟大学人文学部教授　磯貝淳一　様
　　「『言語』の文化をつくる場＝授業」～「言葉がもつ価値」の可能性～

(8)　研究協議

帆苅教諭の実践発表に対して、２件の質問が寄せられ、それぞれ発表者から質問者へ回答してもらいました。指導主事の近藤崇様には、９月の準備委員において協議会運営に関して助言をいただき、研究協議会当日も指導講評をいただきました。感謝申し上げます。

講師：磯貝教授

磯貝教授の講演は、「国語」と「言語」の関わりについて、文化の有り様が言語を変えること、「ら抜き言葉」から見える言語文化や新学習指導要領から考える「言葉がもつ価値」など大変示唆に富んだ内容であり、貴重な講演会となりました。

今回の形態は、発表者・指導者・講演者が主会場である巻高等学校に集まり、全県に配信しながら会場校の国語科教諭は直接参加するという、オンライン併用の協議会でした。研究協議会としての一定の成果はあったと受け止めています。

4　刊行物

「国語研究」第 68 集を刊行にあたっては、５名の方から寄稿がありました。今後の活動の活性化に期待しているところです。令和３年度の事業にご理解・ご協力をいただいた皆様に感謝申し上げます。

地理歴史・公民部会

1　総会

新型コロナウイルス流行のため、会員の皆様へ資料を送付し承認を得る形式とした。

議　事（1）令和３年度役員改選
（2）令和２年度事業報告
（3）令和２年度決算報告
（4）令和３年度事業計画
（5）令和３年度予算案
（6）部会細則の改訂について

2　オンライン研究協議会

期　日　令和３年６月 25 日(金)
会　場　GoogleMeet
講　師　油井 大三郎 様
（東京大学・一橋大学名誉教授）
演　題　「1920 年代の世界史と日本史の架橋ーアジア太平洋戦争を避ける道の発掘を中心にー」
内　容　新科目「歴史総合」において日本史と世界史をどのように統合すべきか、1920 年代を事例に分析し、「歴史総合」の授業モデルや心構えについて御教示いただいた。
参加者　22 名

3　地理研究会・巡検

期　日　令和３年８月 20 日(金)
会　場　内野まちづくりセンター他
当番校　長岡高校
協力校　新潟北高校
内　容　テーマは「新川開削より 200 年～伊藤五郎左衛門と日本酒の国際化～」。第６次産業化の現場である「そら野テラス」見学、鎧潟付近の景観観察、日本酒の輸出を手がける塩川酒造株式会社の酒蔵見学を行った。
参加者　15 名

コロナ禍のため２年ぶりの開催となった地理研究会・巡検の様子。赤塚中学校屋上から角田山と佐潟を望む。

4　公民研究会

期　日　令和３年 11 月 22 日(月)
会　場　正徳館高校
当番校　正徳館高校
発表者　三國 稔男 教諭（佐渡中等教育学校）
勝沼 剛史 教諭（堀之内高校）
小林 真也 教諭（正徳館高校）
内　容　テーマは「新科目『公共』に向けた授業実践」。大項目Ａ～Ｃそれぞれにつながる授業実践について３名の先生から御発表をいただいた。
参加者　20 名

公民研究会の様子。質疑応答のためにアプリ「slido」を使用し、参加者各自の端末から送信する質問・意見をリアルタイムでモニターに表示しながら議論をした。

5　刊行物

『地理歴史・公民研究』第 60 集
（令和４年３月末日刊行）

数 学 部 会

1　全県研究会

(1) 数学教育研究会（Ｗｅｂ開催）

期 日　令和３年７月２日（金）

講 演

演 題 『整数論と素数と暗号
－数学は世界を守っている？－ 』

講 師 新潟大学理学部理学科
数学プログラム 准教授 星 明考 様

研究発表

テーマ 『新潟大学入学試験問題（数学）の
分析について』

発表者　高田高等学校　教諭　坂詰 哲馬

参加者　６３名

(2) 全県研究協議会

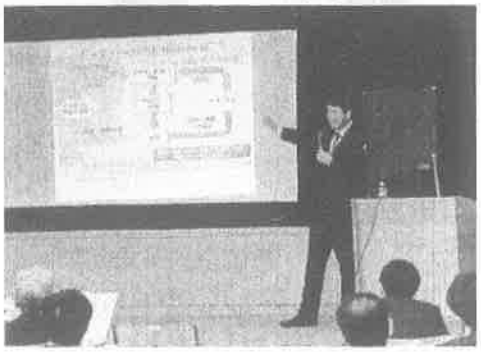
期 日　令和３年１０月２９日（金）

場 所　長岡市立図書館

講 演

演 題　『数学の面白さや有用性を実感させる』

講 師　文部科学省初等中等教育局
主任視学官　長尾 篤志 様



長尾先生の講演

研究発表

全体テーマ『ＩＣＴを活用した授業実践』

・発表①

テーマ『端末のある授業
～ＢＹＯＤ全入時代に備えて～』

発表者 新潟南高等学校　教諭　渡邉 允貴

・発表②

テーマ 『ＩＣＴを文房具に！』

発表者 燕中等教育学校　教諭　髙橋 貴央

参加者　８３名

2　地区研究会

(1) 中高連絡協議会

※新型コロナ感染症等感染防止の観点から中止

(2) 下越地区研究協議会

※新型コロナ感染症等感染防止の観点から中止

3　会議

・代議員会（Ｗｅｂ開催）

期 日　令和３年度７月２日（金）

議 題　(1) 令和２年度事業・決算報告
(2) 令和３年度事業・予算案審議

出席者　６３名

4　広報・研究成果の刊行

(1) 令和３年度数学部会会員名簿の作成

(2) 「数学教育研究集録」第６０号の刊行

理　科　部　会

令和３年度事業報告

１　役員会

【１】第１回役員会

１　期　　日　令和３年７月２日（金）
２　会　　場　Web 会議
３　参 加 者　２４名
４　議　　題　R２事業報告　決算報告
　　R３事業計画　予算案
　　役員改選　その他

【２】第２回役員会

１　期　　日　令和４年１月 27 日（木）
２　会　　場　Web 会議
３　参 加 者　１６名
４　議　　題　R３事業報告　決算報告
　　R４事業計画　予算案
　　その他

２　研究会

【１】物理教育研究会

１　期　　日　令和３年 11 月 18 日（木）
２　実施形態　オンライン研修
３　参 加 者　１３名
４　講　　演
「臨界現象と場の量子論」
新潟大学教育学研究科
教授　伊藤　克美　様

オンラインでの講演の様子

５　研究発表
「Desmos グラフ計算機を用いた正弦波の式の授業」
長岡大手高等学校　山本　　岳
「ICT を活用した授業について」
高田北城高等学校　村山　洵自
「生徒実験の紹介（光・音）」
新潟中央高等学校　本田　　崇

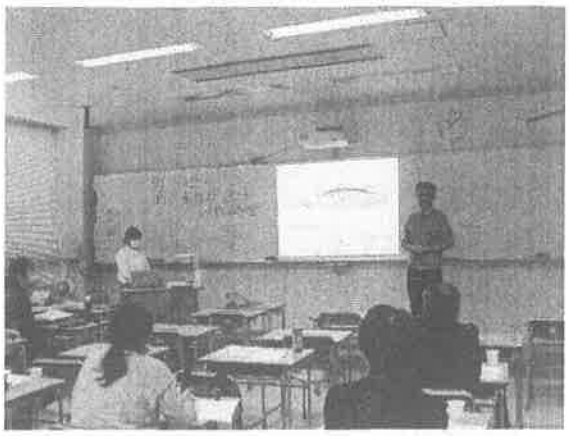
６　研究協議

【２】生物教育研究会

１　期　　日　令和３年 11 月２日（火）
２　会　　場　新潟明訓高等学校
３　参 加 者　３７名
４　講　　演
「ゲノム編集マダイが食卓に上るまで（ゲノム編集の原理と応用）」
京都大学農学研究科
准教授　木下　政人　様

５　研究発表
「県立教育センター「教科別 ICT 研修」を利用した授業実践」
新潟中央高等学校　小田島　大
「防水小型ビデオカメラを用いた水中動画撮影～水深 50cm 以浅でとらえた淡水魚の躍動～」
十日町高等学校　　馬場　吉弘
「1. 授業小ネタ②　2. 顕性・潜性」
新潟明訓高等学校　堀　　昌明

6　研究協議



研究発表の様子

【３】地学教育研究会

1　期　　日　令和３年10月８日（金）

2　会　　場　新潟県立生涯学習センター

3　参 加 者　１４名

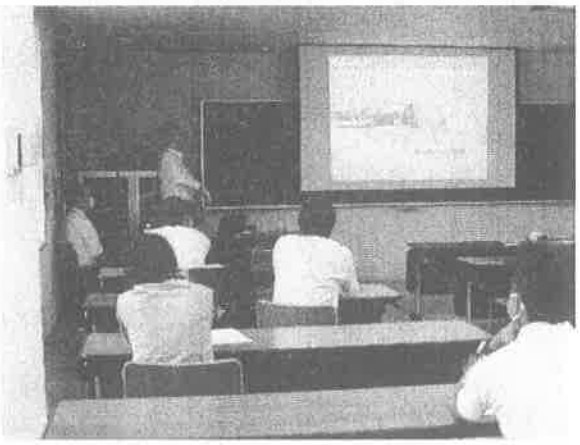
4　講　　演

「南極の観測と生活」

新潟地方気象台

広域防災管理官　杉田　興正　様

主任技術専門官　水野　太治　様



講演の様子

5　研究協議

「ＩＣＴの活用事例」

長岡大手高等学校　　林　　正幸

芸術部会

1　総会・公開授業・研究協議会

（1）総　会

新型コロナウイルス感染症対策により書面審議とした。大多数の賛成回答をもって承認された。

議　事

・令和２年度事業報告
・令和２年度決算報告
・令和３年度役員案
・令和３年度事業計画案
・令和３年度予算案
・芸術部会規約の確認
・今年度の事業について提案

（2）実践発表・公開授業

期　日：令和３年 11 月 16 日（火）
会　場：アトリウム長岡白鳳の間
（オンライン中継併用）

＜音楽＞
市立明鏡高等学校　今井 優太 教諭
音楽Ⅰ
『混声合唱の響き』（公開授業・録画）

○単元の構想と生徒の実態

25 名。コミュニケーションに苦手意識を持つ生徒が多いが、今までの学習を通して、他者とかかわろうとする雰囲気が醸成されてきた。他者の意見を聴くことで、自分の考えを深め、音楽表現に必要な技能を身に付けさせたい。

○ねらい

「I LOVE…」について、生徒の合唱と音源を聞き比べさせ、曲にふさわしい発声や発音、他者との調和を意識して歌う技能を身に付ける。

○学習課題

理想の歌い方に近付けるためには、どのようにしたらいいだろうか。

○まとめ

歌詞が伝わるように、はっきり発音して歌うようにする。

強弱の変化がわかるように、メリハリを付けて歌うと良い。

○振り返り（生徒の記述例など）

十分練習して歌えていると思っていたが、録音を聴いてみると思ったように歌えていないことがわかった。

（授業構想シートより抜粋）

授業見学した教員からは、「教師が一方的に進める授業より、生徒の表情が生き生きとしていた。」「生徒が一生懸命歌おうとしている姿勢が良かった。」等の意見があった。

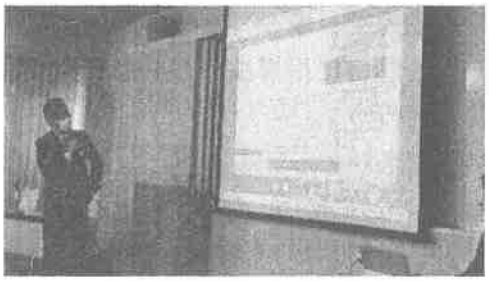
今井教諭の生徒への対応が、柔らかく、そのおかげで、生徒自身がよく考え、身に付けられるような雰囲気をうまく作り上げていた。

＜美術・工芸＞
県立新潟工業高等学校　鈴木 雅詩 教諭
美術Ⅰ
『鳩笛の鑑賞～カメラ機能を使った効果的な展示～』（実践発表）

GIGA スクール構想のもと配備された ICT 機材をどのように活用するか、という今年度の大きな課題について、制作物の鑑賞、自己の作品の映像化の方法を模索した実践発表であった。

各自が制作した鳩笛を実際の校内の風景の中に置き、生徒のコメントも含めた言語活動の要素と造形要素が画面に映し出されるところが制作の着地点となっている。

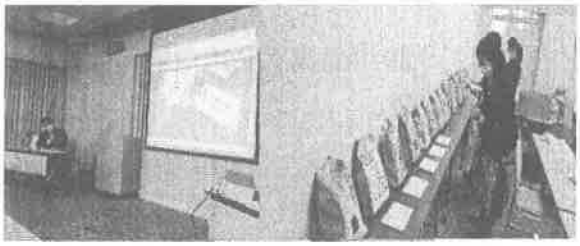
様々な映像に見慣れている生徒たちが自らの作品をもってライティングやアングル、色彩の構成などに努力、工夫を凝らし、完成映像にしようとする楽しげな光景が想像される。日頃の制作活動とは異なる機材の操作と、その合間に見受けられる、それぞれの生徒が持つユーモアのセンスが色濃く作品に反映される授業実践であった。また作品の発表、プレゼンテーションを電子黒板で行い、お互いの作品発表、相互評価の中でお互いのよさを認め合うことができる授業実践でもあった。



＜書道＞
県立長岡農業高等学校　金子 達雄 教諭
書道Ⅰ
『生活の中の書「米袋の制作」～長農祭に向けて～』(公開授業・録画)

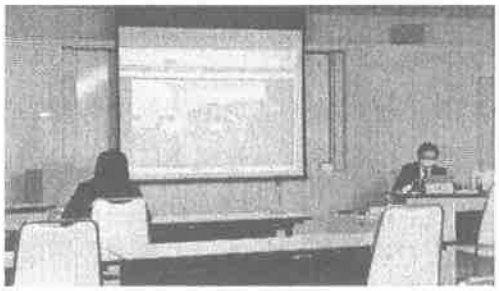
全日制課程農業科で学ぶ１年生が文化祭で授業作品発表を目指して米袋を制作する過程を単元ごとの動画にまとめた実践発表及び公開授業であった。

地元新潟の名産品である米を入れる袋そのものを組み立てるとことから始まるというのがユニークである。既に市場に出ている米袋のパッケージのデザインを観察し、自身の構想を練るために ipad を使用。袋の組立て、デザイン、米の品種やブランドのネーミング、揮毫、全てが各自の手作りであるところが魅力である。農業の専門分野を学ぶ生徒たちにとって、身近な題材を取扱うことで地域振興や社会との繋がりを意識するなど、横断的な学びの機会であったことと思う。文化祭発表時には、制作意図を記録したキャプションが添えられ、相互に鑑賞、評価するなど、作品の完成と発表において、生徒の達成感に繋がる十分な仕掛けが施され、工夫された授業内容であった。



（３）研究協議会及び分科会
＜全体会＞
県立柏崎総合高等学校　山下 幸治 教頭
『Office365 グループウェアの活用』

PC やスマートフォンでリモート会議を行う際及び授業の動画を作成して共有する際のグループウェアの活用法や注意点等についての協議が行われた。



＜分科会＞
●各科
「次年度研修会計画について」
「新カリキュラムについて情報交換」
●音楽
「ICT の活用について」
「県外先進校視察について」
●美術
「令和７年度全高美工研新潟大会について」

2　各科研修会・研究協議会

■音楽科研修会

※今年度は新型コロナウイルス感染拡大予防対策のため実施せず。

■美術・工芸科研究協議会

期　日　令和３年８月４日(水)
会　場　県立小千谷西高等学校
内　容　「2025 新潟大会準備検討会」
参加者　10 名

【内容】
○自己紹介
○資料確認
・2018 埼玉大会、2019 東京大会引継資料
・2025 新潟大会までの見通しについて
○大会日程について
・足掛け３日がスタンダード
・時期は夏（８月）がよいか
・会場、規模をどう想定するか
・2021 茨城大会を参考にすると、リモートを併用、冊子は事前配付、オンランなら１日日程でも可能か
・オンラインのみか、従来どおりかの両パターンで進めていく
・代表者会議等一部現地開催もあり
・リモートならどこを拠点にするのか
・会場アクセスの検討
・専任のいる高校が多い上越での開催はどうか
○テーマ、分科会について
・大会テーマから派生した分科会テーマ
・2020 年度内に募集・集約したテーマを参考に、３年前くらいには絞り込む
・新教育課程、SDG's、社会の変革等、専任を問わず全体で取り組む必要あり
○外部機関との連携
・長岡造形大学との連携
・県立近代美術館との連携
○協賛団体について
・コンベンション協会との協同、土産品の検討など
○本日の参加者を６つの部局（事務局・総務部・研究局・事業部・財政部・編集部）に割り振り、全会員に必ず役に入ってもらう

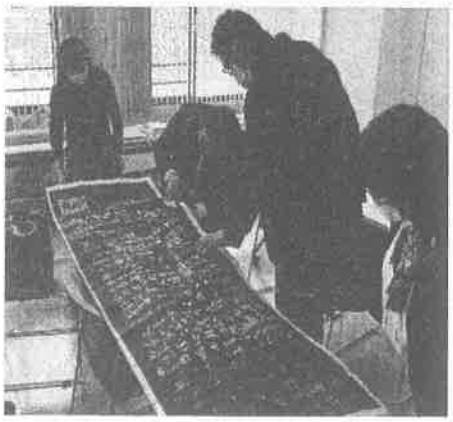
■書道科研修会

期　日：令和４年１月 21 日（金）
会　場：さいわいプラザ長岡市中央公民館３階教室
内　容：＜教材研究＞
造像記、摩崖、木簡、顔真卿の書を題材に指導法の詳細な意見交換を行う
参加者：７名

【内容】
小堺部長の開会の挨拶の中で、芸術科においても例外なく ICT 活用実践を進める必要があること、新学習指導要領の本格実施を目前に控え、観点別評価の検討、学習の成果を的確に捉える「指導と評価の一体化」の実現への期待などが示された。教員相互の弛まない研修が不可欠であることを改めて認識し、次世代の生徒に合った授業改善を目的に研修が行われた。

まず、伊藤教諭（中越高校）が所蔵する「賀蘭汗造像記」、「一弗造像記」、「雲峰山左闕題字」、「天柱山題字」、「何君閣道刻石」、「顔勤礼碑」の拓本のほか、「竹簡・木簡」等の複製資料を鑑賞し、それぞれの古典についての印象や教材感が話し合われた。

次いで、用具・用材の選定方法や取り扱い方について、兼毫筆、羊毛筆のどちらを用いているか、墨液の濃度の違いや紙の質等の情報交換を行った。生徒に身に付けさせたい力、到達目標に合わせた選定方法に各校の事情が感じられ、興味深かった。



題材ごとに臨書をしながら、絶対に押さえるべき重要ポイントの確認と、生徒に伝えたい、これぞというこだわり、声の掛け方、褒め方等、自由に意見を交わした。

造像記では起筆や転折を作る際、どれだけ鑿（のみ）の刻意を盛り込めるかに話題が集中した。摩崖と木簡では書く人により運筆の速度にかなりの違いがあり、執筆法が大いに議論の的となった。また、顔真卿の行書では線のリズムや呼吸、墨継ぎの考え方等で共有すべき点が多かった。

今回の研修は、ただ一つの結論を導き出すための試行錯誤とは異なり、多岐にわたる指導法の知見を結集し、授業改善を促進することに真意がある。指導者による違いも共通点も直に受け止めた上で今後精査し、これからの授業作りに生かしていきたい。

結びに、「元々上手な生徒は、ある意味、勝手に上手になっていきます。でも、そうじゃない生徒にも、いかに関心を持たせて伸ばしてやれるかが、我々教員の腕の見せどころでしょう」と語った成田教諭（新井高校）の言葉に、参加者一同が兜の緒を締める心境に至った。

英語部会

1　研修会

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で昨年度実施できなかった夏季研修会と全県英語科研究協議会を初の試みとなるオンライン形式で実施することができた。

1）夏季研修会

①実施日

８月３日（火）１３：３０～１６：３０

②参加者

２３名

③講師

なし

④内容

ブレイクアウトセッションで参加者をグループに分け、日頃の悩み相談や実践紹介等、「参加者全員が主役」になり、情報交換や交流を楽しみ、実りある時間を共有することができた。

参加者アンケートでは、「参加してよかった」が９４．７％、「まあまあよかった」が５．３％という状況で、盛況裡に終わった。

2）全県研究協議会

①実施日

１０月１８日（月）１３：３０～１６：２０

②参加者

８６名

③講師

関西外国語大学　中嶋洋一先生

④講演テーマ

『新学習指導要領の新機軸と評価について』

⑤内容

講師の中嶋先生から新学習指導要領の指導と評価について、豊富な具体例と共に非常に分かりやすくご指導いただいた。

質疑応答の時間でも、現場の先生方の質問や悩みに対して中嶋先生が丁寧に対応してくださり、学びの多い時間となった。

参加者アンケートでは「とても良かった」が７０．９％、「良かった」が２５．８％でこちらも大変盛況に終わることができた。

2　刊行物

「高教研英語部会誌　第66号」を刊行。

（内容）

・研修会報告

・実践報告

・その他

（文責　長谷川　誠）

農業部会

令和３年度新潟県高等学校
農業教育研究大会報告

新潟県立高田農業高等学校

研究主題
新しい時代をリードする農業教育はどうあるべきか
「G.A.P.認証を活用した農業教育」

１　目　　的　　本県の農業関係高等学校の教職員が、農業教育の直面している諸問題について研究協議し、農業教職員の資質の向上と併せて農業教育の振興発展に資する。
２　期　　日　　令和３年12月23日（木）
３　会　　場　　アトリウム長岡　白鳳の間
４　日　　程

13:00～13:15	受付
13:20～13:30	開会式
13:30～14:10	講演
14:10～14:50	実践発表
15:00～15:30	研究協議
15:30～15:50	指導講評
15:50～16:00	閉会式

講演会
演　題　「農業大学校におけるGLOBAL G. A. P. 認証取得の取り組み」
講　師　　新潟県農業大学校稲作経営科長
教授　吉川　力　様

G. A. P. の認証を取る、あるいはG. A. P. をすると言われますが、そもそもG. A. P. とは、Good Agricultural Practice（良い農業のやり方）の頭文字をとってG. A. P. と呼んでいます。

G. A. P. の認証をとるというのは、第三者機関の審査を受けてきちんとG. A. P. の取り組みが行われていると言うことが証明されること、G. A. P. に取り組むと言うことは、基本的なG. A. P. の考え方にしたがって農業者が自ら取り組みを進めると言うことになるのかと思います。認証という仕組みはありませんが、新潟県では農林水産部が作った生産者向けの新之助G. A. P. があります。もう１つは、G. A. P. を多くの方に行っていただくために、平成２４年に新潟県G. A. P. 規範）を作りました。

農業大学校で取ったGLOBAL G. A. P. はドイツの会社が運営主体となっており、食品の安全と環境保全、労働安全などの用件があります。認証のG. A. P. になると人権保護とか農業経営管理も加わります。審査費用としては、10～40万円の他に旅費がかかります。世界的に通用するG. A. P. は、ASIA G. A. P. とGLOBAL G. A. P. です。

農業大学校ではGLOBAL G. A. P. を取得しています。世界的・標準的なG. A. P. で事実上の国際規格で、GLOBAL G. A. P. であれば、一般規則（総合規則と同じ）があって、管理点と適合基準、その内容が細かく分けられ、全農場基準・全作物基本基準・作物別基準と３つの構成でなっています。認証審査は、毎年審査を受ける必要があり、これがGLOBAL G. A. P. の一般規則といわれるものになります。例えば青果物で認証を取るためには、管理点と適合基準が全農場基本(AF)と呼ばれる部分、農作物基本(BC)、青果物(FV)この３つ管理点と適合基準を満たさなければなりません。米なのであれば、全農場基本(AF)、農作物基本(BC)、コンバイン作物(CC)の３つを管理点と適合基準について要求を満たす必要があります。全農場基本(AF)には、１の「サイトの履歴と管理」から１７の「不適合品」までの１７の項目があります。農作物基本(CB)

も１の「トレーサビリティ」から８の「機器」、青果物(FV)も１の「サイトの管理」から５の「収穫と収穫後の取扱」と数多くの項目があり、それぞれの用件を満たしていく必要があると言うことです。

これが先ほどの総合農場認証と呼ばれるもので、米の場合はこのように全農場基本、農作物基本、コンバイン作物となっています。この資料は、G.A.P.普及推進機構のホームページからダウンロードをすることができますが、内容はこのようにAF１からAF17まであって、それぞれについて一つ一つ管理点と、満たさなければいけない適合基準が全て書かれているわけです。例えばAF1.1なのであれば、生産に使用する各圃場、樹園地、温室、囲い地、区画、畜舎/ペンやその他の区域/場所を参照する仕組みが確立しており、農場の図面や地図上で照合できるようになっていますか。という管理点に対して適合するための基準が書かれており、その内容を満たすように農場として取り組んでいく必要があると言うことです。そして各項目にはレベルも設定されています。レベルには、上位の義務、下位の義務、推奨事項という３つがあり、GLOBAL G.A.P.では、上位の義務については全ての項目についてその要求を満たす必要がありますし、下位の義務についてはその９５％の項目について要求を満たす必要があります。推奨事項については特に求められていません。これら、上位の義務、下位の義務、推奨事項それぞれ、定められた割合の適合基準が満たされていることが確認されると審査に合格し、認証を取得することができます。

新潟県では合計１４３農場がG.A.P.認証を取得しています。G.A.P.の目的はG.A.P.をすることによって作業手順の標準化、ルール化や効率化が図られて、安全性が確保されたり、その結果として良い農産物が作り出されたりするようになる、それがG.A.P.のメリットだと言われます。また、危険防止の為の対策をとることができるようになることがG.A.P.の大きなメリットです。例えば不適切な農薬使用によるリスク、ドリフト(農薬の飛散)や廃棄物の汚染など環境保全に関するリスク、労働安全に関するリスク、従業員の離職など経営に関するリスク、などそれらを想定し事前に対策を立ててルール化することによってリスクを軽減する仕組みを作ることがG.A.P.の最も大きなメリットです。

G.A.P.に取り組むことによって経営が改善されたという事業者が多く見られます。G.A.P.とは、農作物の差別化を図るためのものではなくて、農業経営をより良くするするためにあるのだという一例かと思います。

G.A.P.の場合には、いろいろな記録を残すように要求されます。記録を残すことで「言った」、「聞いていない」というような連絡の不徹底をはじめとした様々なミスを軽減することができますし、事故が起こった場合にも、原因をさかのぼって調べることができるということが記録を残すことの重要性、メリットになるのかと思います。

農業大学校がG.A.P.に取り組んだ理由は、食の安全、環境保全、労働安全のリスク管理などを体系的かつ実践的に学ぶことができると言うこと、農業経営を俯瞰的に見ることができる農業者の育成、いわゆる経営者の目を持つ農業者の育成に役立つだろうと言うこと、農業のグローバル化や農産物の輸出を見据えた学生教育を目指すのに最適であろうと言うこと、また農業者に対する知識・技術習得の場、高度なG.A.P.を学ぶための場を提供するためです。取得のため日本生産者G.A.P.協会から指導を受けて取り組みました。平成２８年１１月、米でGLOBAL G.A.P.認証を取得しました。これは全国の農業大学校で初めてのことです。平成３０年１月には、いちごでGLOBAL G.A.P.認証を取得することができましたので、現在も米といちごについて継続して認証を取得しているところです。また、未来につながる持続可能な農業推進コンクールで賞をいただくことができま

した。G.A.P.認証をとるまでの過程ですまずは現状把握とG.A.P.の理解から始めました。次にリスクの評価をしました。農場内にはどのようなリスクがあるのか、その確認作業をして、リスク評価を行いました。リスク評価に基づいて、リスクを低減するためのルール作りと、手順書の作成を進めていきました。また、わかりやすい掲示物の作成、様々な記録簿・台帳等を整理していきました。また、農場で作業を行う先生方や学生達にルールを理解していただくために教育訓練を行いました。

農業大学校では「健康と安全」、「生産場所」、「衛生」、「水管理」、「農薬残留」、「有機肥料」、「フードディフェンス」、「食品偽装」などについてリスク評価を行っています。

最後に、生徒が将来の経営者として、GLOBAL G.A.P.を行うに当たって期待していることは、自ら様々な「安全」、「衛生」、「健康」、「環境保全」をPDCAで実践してそれを理解し、「効率」、「低コスト」など経営感覚の上昇に役立ていけること。グローバルで俯瞰的な視野をもつこと。です。

GLOBAL G.A.P.を学ぶことによって、生徒達に農業の実践力や経営感覚が身につくことを期待しています。そして卒業後には、就農・就業先の経営体でG.A.P.導入を支援する位の力が身についていれば良いと思います。また、実際に農産物の輸出にチャレンジするようになってくれることを期待していますし、そうなれば、GLOBAL G.A.P.を学んだ効果を感じてくれるのではないかと思います。

講演後、質疑応答が行われました。

実 践 発 表

「GLOBALG.A.P.認証の取り組みと活用」

新潟県立村上桜ヶ丘高等学校　教諭 山本悠太

1　活動の経緯と目的

農業森林系列は２年次の作物実習で岩船産コシヒカリを栽培しています。地域のブランド米である岩船産コシヒカリをもっと沢山の人に知ってもらいたいと考えたのがはじまりです。そこで３年次で取り組む課題研究のテーマとして、このGAP認証取得を目標に掲げました。

GAP認証を取得する農場は毎年増えていますが、ハードルが高く難しいイメージが先行し、普及していかないのが現状であることが分かりました。しかし、GAPに取り組むことで、農産物の信頼度が高まるだけでなく、農作業事故を未然に防ぐ仕組みが作られ、経営改善に繋がるよい効果もあります。

高校生が地元の農家の方々と一緒に取り組む事で、この村上地域の農産業の活性化に繋げたいと考えました。

2　取り組みの経過

GAPへの理解を図る取り組み

（１）GAPガイダンスへの参加

（２）GAP輪読会の開催

具体的なGAPの取り組み

（１）書類作成（２）現場整備

（３）プレ審査（４）先進校情報交換

認証審査

（１）日時：令和３年９月１５日

（２）内容：作成書類の審査

現地審査（圃場、実習棟）

（３）結果：是正項目１３項目

認証取得

・取得日：令和３年１０月１３日

3　費用

（１）コンサルティング費用は同窓会から支援を受けた。

（２）審査費用は国（県）の補助を受けられるため実質無料。

（３）毎年確実にかかる費用としては「残留農薬検査」は確保する必要がある。

4　成果と課題

（１）生徒の感想（抜粋）

・何もかも初めてのことばかりで、何をどうすればいいのか、何が正解なのか分からない状態でスタートしたが、沢山の人達に手助けしてもらって達成できた。
・私の就職先は農家や地域の方々と直接触れあう仕事なので、色々な方々に GGAP のことを広めていきたい。

（2）成果
・外から受ける刺激が生徒のモチベーションを高めた。それが生徒の自信となり、主体性が増した。
・目標達成の為に一人ひとり（職員・生徒）の役割を明確化したことで、責任感と連帯感が生まれた。

（3）課題
・認証取得の必要性をしっかり議論した上で、「する GAP」と「とる GAP」を分けて考え、職員共通の理解を得ることが大切である。

「GLOBALG. A. P. 認証の取り組みと活用」

新潟県立高田農業高等学校 教諭 岡田雅樹

1　はじめに

GLOBAL　G. A. P. は農産物の食品安全、環境条件等に配慮した認証制度で、東京オリンピック・パラリンピックの選手に提供される食材の条件になるなど国際的な基準となっている。本校が平成 29 年度より取り組んだ、新潟県初となる G. A. P. 認証に向けての取り組みについて紹介します。

2　目　的
・適正な農業生産管理技術とグローバルな経営感覚を兼ね備えた地域を担う人材を育成する。
・地域社会と繋がり、地域の魅力を創造し、地域の人々と共に新たな高農ブランドを創生する。
・新学習指導要領に対応する。

3　取り組みの経過

（1）GAP 理解（研修会参加）
・平成 29 年度新潟県 GAP セミナー
・新潟県国際水準 GAP 実践研修会
・新潟県国際水準 GAP 実践研修会

（2）GAP 認証の手順
〇コンサルティング（株式会社 AGIC）
第１回：令和元年 12 月 26 日（木）
第２回：令和２年７月 16 日（木）
第３回：令和２年９月　３日（木）
第４回：令和２年９月 17 日（木）
〇審査（SGS ジャパン株式会社）
・是正処置が必要な項目：約 20 箇所の指摘を受ける。
・是正措置完了・報告
※令和３年１月８日（金）　GLOBAL G. A. P. 認証取得

4　GLOBAL G. A. P. 認証後の活用
〇認証継続のための学習
・ライスセンターの点検
・上野田水田の点検
〇地域への貢献活動
・上越市の先進農家にて GLOBAL G. A. P. のチェックリストをもとにした点検を実施
・不適合項目の伝達。

5　おわりに
今回の GLOBAL G. A. P. 認証、認証継続、活用の取り組みをとおして、認証取得までにかかる費用をどこから拠出するのか。継続に必要な費用をどのようにおさえていくか。職員の多忙と負担をいかに軽減していくか。認証継続における教育効果はいかほどなのか。一般農家における GLOBAL G. A. P. 認証取得率の低さ。などが課題であると感じました。

＊発表後、質疑応答が行われました。

研 究 協 議

（第１グループ）

「各校において今後、Global G.A.P.認証への取り組みをどのようにしたらよいか、また、Global G.A.P.認証取得を広めていくためにはどのようにしたらよいか」について協議が行われた。はじめに、各校の取組状況について話し合われた。

（第２グループ）

各校で今後、Global G.A.P.の取り組みを行う予定があるか、あるいは農場の整備、リストラクションなどの取り組みについて、各校の現状についての意見交換をした。

（第３グループ）

○今後各校で、Global G.A.P.への取組みをどのようにしたらよいか。

○G.A.P.を広めていくためにはどうすればよいか。以上の２点で話し合いが行われた。

研究協議終了後、教育庁高等学校教育課指導第２係指導主事　徳永伸英　様より指導講評をいただき、研究大会が終了した。

令和３年度農業教育課題研究会　報告

新潟県立長岡農業高等学校

１　テーマ

農業鑑定競技における

効果的指導方法の研究

２　目　的

本県農業クラブ員全体における農業鑑定競技レベルの向上を目的に、各校の実践的な指導方法を報告してもらい、情報共有することにより指導者の指導力向上を目標とする。

３　日　時　令和３年11月26日（金）

４　会　場　新潟県立長岡農業高等学校

５　日　程

13:30～13:45　受　付

13:45～13:50　開会式

13:50～13:55　日程説明

13:55～14:30　講　　演

『実践的な農業鑑定競技指導法について』

県立高田農業高等学校 教諭 遠藤 正斗 様

14:30～14:40　休　憩

14:40～16:00　実践報告（各校より）

16:00～16:10　休　憩

16:10～16:40　研究協議（質疑応答）

16:40～16:50　指導講評

16:50～17:00　閉会式

６　参加者

新発田農業高校	２名
加茂農林高校	２名
高田農業高校	３名
村上桜ヶ丘高校	１名
巻総合高校	１名
柏崎総合高校	１名
十日町総合高校	１名
佐渡総合高校	１名
長岡農業高校	９名
合　計	２１名

７　内　容

県立高田農業高校　遠藤正斗　様から、高田農業高校での農業鑑定競技の学習指導を例に、実践的で効果的な指導方法について講演をいただいた。

（１）自己紹介とこれまでの指導経験

柏崎総合高校に入学し、初めて農業クラブや農業鑑定競技というものを知った。１年生後期から農業鑑定競技に取り組み、翌夏にも４０問の校内大会を行い、参加した人たちの中から県大会の選手を選ぶという話を聞いて、当時の担当の先生に励まされ、真剣に取り組むようになった。２年生の時、県大会に出場した。全国大会に学校代表として推薦されたが、県大会の点

数が低かったので辞退した。３年生の時は、県大会で最優秀を取ろうと思って頑張った。県大会の開会式の時、加茂農林高校の生徒たちが勉強カードを見ながらずっと最後の確認をしていたのが、すごく気になった。県大会では入賞し、神奈川で行われた全国大会に出場した。

当時は、資料もなく自分でファイルとノートを作るところから勉強を始めた。学校に保存されていた過去問題集を全部コピーして４００～５００ある項目の範囲から、教科書等使って写真等を探した。そして、過去問題を見ながら、どのような問題が出るか確認していた。

全国大会に出て、農業クラブはすごく楽しいと感じ、教員になってからもぜひ指導したいと思っていた。大学を卒業して１年間、柏崎総合高校、長岡農業高校で非常勤講師として生徒に指導し、勉強方法を長岡にいらした森先生から教えてもらいながら、問題作りも行った。その後、加茂農林高校で採用され、井ノ口先生から指導方法について学んだ。

（２）県大会に向けての指導

７月上旬から８月上旬の約一か月間程度実施。県大会での指導目標は、生徒に最優秀を取らせ自信をつけさせることだが、それ以上に大勢の生徒を入賞させたいという思いでやってきた。農業クラブについてよく知らない生徒も、頑張った結果入賞できる学習意欲が上昇するので出来る限り入賞者を増やせるよう意識して指導に臨んでいる。

○学習カードを用いての学習

県大会の出題傾向を見ながら、範囲を絞り、物と名前の一致や特徴を覚えさせる。さらに、同分野に出場する生徒同士で問題を出題し合い学習を深める。

表側に写真、裏側に説明を入れる。写真は、どうしても無理な場合はインターネットから引用させることもあるが、わかりやすくて見やすいので、できるかぎり自分で撮ったものを使わせている。裏側の説明は、教科書等用いて特徴等を書き出しているが、書きすぎると分かりづらくなってしまうので、基本的なこと、重要なことだけを記入させる。それをラミネートしてカードにしている。

○リハーサル問題による学習

県大会を想定した『リハーサル問題』に取り組む。指導の初期には、教員が作成した問題を解かせる。また、生徒自身が問題作成者となり『リハーサル問題』を用意する。県大会の場合、選択問題が１８問、記述問題が１２問ある。基礎を重視し、簡単でもいいから、選択問題であれば「植物の科名」「アブラナ科はどれですか」「この目的に使用する道具はどれですか」「アミノ酸の実験はどれですか」等基礎的な問題を作らせる。記述問題については、名前を実施基準通りに書けないと点数が取れないので、名前、機器の使用目的等、単語で終わるような内容について出題をさせるようにしている。教員が問題の確認を行い出題範囲が偏らないように工夫する。

○実物見学

校内に、実物がある場合はその実物を確認し特徴などを理解させる。機械器具などは大きさや形状がメーカーによって違っていることもあるので、そういうポイントを説明してあげたり、予想される問題を話したりしながら、実際の物の姿が分かるように指導している。

（３）全国大会に向けての指導について

県大会終了後すぐに全国大会に出場する生徒を選抜し、８月の下旬から１０月にかけて指導する。全国大会はマークシートになっているので、出場者番号等のマークは丁寧に記入することを指導する。全国大会では、実施基準・範囲を全て覚えさせる必要があり、内容も問題の質もすごく難しくなるが、基礎的なところも必ず確認させなければならない。記述問題は２５問あるが、選択問題の方に難問が多く、記述問題には簡単な問題も出てくるので確実に取れるようにする。　全国大会では、同率１位の生徒が複数いた場合、計算問題の正答数が多い方が上位となるため、計算問題は、２問中１問は

確実に取れるように練習させる。どの分野でも基本的に全国大会も学習指導要領に基づいている教科書の内容から出題されるので、教科書の内容を確認させることが大事だ。例えば、「分野・食品」ならば試薬と実験等、「分野・森林」では木材・樹木の正確な見分け方、「分野・土木」では計算式の意味の理解などについてしっかり学習させる。「分野・造園」は範囲が広いので教科書全般を学習させる。専門性が強い内容は、専門の先生に問題の確認をしてもらい、実物を見せてもらう。

○教科書を参考にしたノート作成

県大会では「この器具の名前は何ですか」と出題される器具が、全国大会では「この実験に使う器具は何か書きなさい」という様に、県大会では「この花の名前は何ですか」という花が、全国大会では「この花のこの器官名を書きなさい」という様に出題される。カードを用いた学習に加え、難易度が高い問題に対応するため、教科書の内容や物品などの見分け方を抜粋してノートにまとめさせる。

○実施基準テスト

出題範囲の内容を全部空欄にして、そこに名前を書かせる。全国大会では実施基準通りの言葉を書くことは必須であり、80～90％以上の点数が取れるように指導する。

○リハーサル問題の実施

プレゼンテーションソフトを使って生徒にリハーサル問題を作成させる。生徒には、基本的な内容から応用的内容まで幅広く出題するように指導する。リハーサル問題実施後は、生徒同士で解答の解説をさせる。

○合同学習会の実施

全国大会前の９月と１０月に県内他校の生徒と実施する。計算問題トレーニングや各校でパワーポイントを用いて作成してたリハーサル問題の実施、実物確認などを実施する。他校の生徒や教員と関わることで励みになり、生徒のモチベーション向上につながる。

（４）おわりに

新潟県では、ここ１０年ぐらいの間、最優秀賞入賞者もあり、入賞者の数、入賞率も上がってきた。全県規模で学習会をすることによって、刺激を受け、お互いを高め合うことができる環境を作り出すことができたと感じている。

鑑定競技を通じて、農業に関する知識が身に付き、専門の大学に進学を希望する生徒たちについては、進学先でも活躍できるのではないかと思う。また、学習をしていくうちに「知識を得ることに楽しい」「自分にもわかる勉強ができて、新しい知識が増えるのが面白くてしょうがない」と言ってくれる生徒、「この経験を活かして資格を受けてみよう」とチャレンジ意欲が向上した生徒も見てきた。

農業クラブ活動は、生徒が自己肯定感を高め、「頑張ったな。」、「行ってよかったな。」と思える経験を得る手段の一つだと思っている。そういう意味でも鑑定競技の指導をしてきて良かった。高校生活でしかできない、農業高校生にしかできない経験を少しでも生徒にさせていきたいと思っている。今後も先生方に協力していただき、ご指導いただきながら自分を高めていきたい。

講話の後、実践報告として、参加各校から「校内大会の実施状況」「県大会・全国大会出場者の選抜方法」「指導の方法」「今後の課題」などを報告いただいた。

研究協議では、新発田農業高等学校のスマートフォンアプリ「暗記マスター」を用いた指導、長岡農業高校の「Google スライド」で作った資料を「Class　room」で共有しての学習など、タブレット端末やスマートフォン、ＩＣＴ機器の活用についての話題が多く、各校の関心の高さがうかがえた。

また、実施基準の基礎資料が、全国大会の「問題公表」と照らし合わせても、教科書であることが確認された。

最後に、長岡農業高等学校・早川勝志校長より、指導講評をいただいた。

校長自身の、文化部活動指導の経験談を交えつつ、かつて地域のリーダーを養成するための組織でもあった農業クラブ活動が、現代では生徒の動機付けや、他の人との出会いを通じて成長を促していくきっかけとして機能していると指摘され、「運動部の活動とも違い、生徒の中に成長の『形』ができるので見えにくく、先生方の指導も大変かもしれないが、しっかりやってもらいたい」と激励の言葉をいただいた。

工業部会

電気・電子系講演会・見学会

【講演会・研究会】

期　日　令和３年９月30日（木）

会　場　新津地域学園

参加者　８名

テーマ：「再生エネルギー拡大に伴う課題など」

講　師：　東北電力ネットワーク株式会社

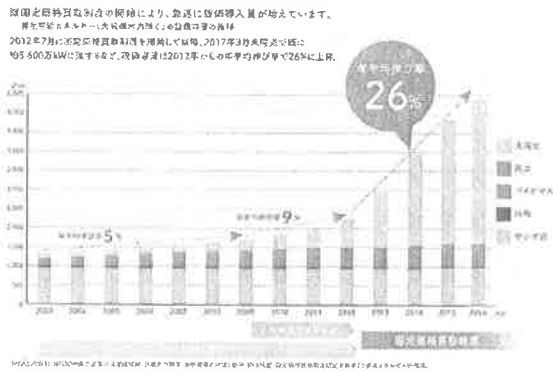
新潟支社　設備計画グループ　宮澤和人様

＜演題＞

再生可能エネルギー連携拡大に向けた、東北電力ネットワークの取り組みについて

・はじめに

２０１２年に再エネ固定価格買取（FIT）制度が導入され、着実に接続希望者が増加。一方、需給バランスの維持の為、再生エネルギーの出力制御が必要となる。



資料①FIT 制度開始以降の再エネ連系量の推移

・工事費負担金を複数の事業者で共同負担

「電源接続案件一括検討プロセス」がルール化

設備増強には、１０年くらいかかるため、計画的に事業を進めている。

・大型蓄電池

システム実証実験への取り組み

周波数変動の対策として、大型蓄電池システムを採用。（リチウムイオン電池・出力２万Kw）

写真①　講演会

【見学会】

期　日　令和３年９月30日（木）

会　場　新潟県東部産業団地

参加者　４人

テーマ：「メガワットの太陽光発電所」

講　師：岡本　誠様

・太陽光発電設備概要

１号系列

最大出力　１Mwh

２号系列

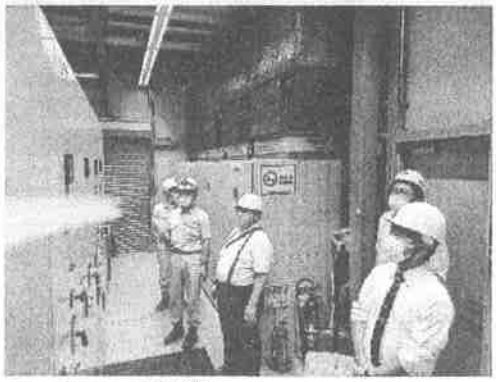
最大出力　１Mwh

３号系列

最大出力　１５Mwh

写真②　発電概況

写真③　メガソーラー発電設備



写真④　変電設備

（記・新津工業高校　勝又　正史）

機械・電子機械系研究会・見学会

日　時　令和３年10月１日(金)
　　13:30～15:10
会　場　三条市立大学
参加者　18名

[研修会・見学会の狙い]

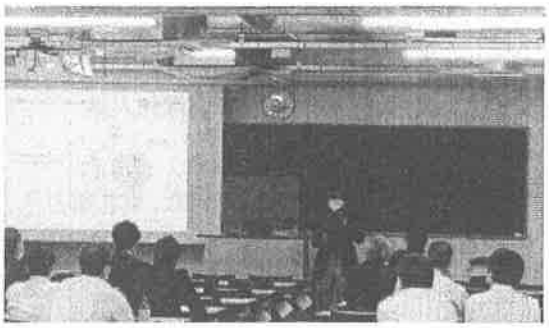
本年度は「工業技術のマネジメント」をテーマとして研修会を実施した。このテーマは世界有数のものつくりの町である当地域産業界の喫緊の課題であり、また業界全体のテーマとなっている。

本年度４月に開学した三条市立大学の取り組みとあわせ、実践例として地域企業を見学することで、本県のものづくりを支える人材育成に深く関わる私達の今後の取り組みを考える機会としたい。

[研修会]

三条市立大学学長アハメド・シャハリアル氏のご講演いただき、三条市立大学の取り組みを通して、これからの人材教育に対する貴重なご意見をいただいた。

学長は、「エンジニアとは実践的であるべき」という基本的な視点から、インターンシップ等を通して、最先端の現場から、学生自身が持つ目標あるいは達成したい目的に、必要な力を自ら考え養う姿勢を重視していた。更に、現代の工業界は「市場主義」であり、このことを踏まえてイノベーションする人材を育てていくことが求められているとの説明がある。



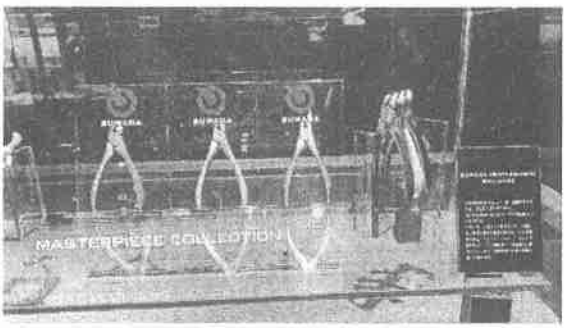
しかし、日本の教育は明治から変化していない。不易なものもあるが総じて保守的である。「マルチ性」を求める人材教育は「詰込み型」教育となる傾向があり、この点で「一点を深く、周辺は広く」学ぶスタイルに変えていく必要がある。こうした基本方針を踏まえ、県央地域を中心として、多数の協力企業、関係機関と連携し、今後、就業体験の機会を多く設ける予定であり、現場の最先端を体験することで、自身に必要な学びに活かす形をとっていることや日常活動する学舎の施設設備も学生が創造的な探究活動がしやすいための様々な工夫がなされていることなど、同大学の特徴をご紹介していただいた。続く質疑応答では、開学間もない同大学に関する多くの質問が寄せられたが、この講義の締めくくりにあたり、学長様から人材育成に深く関わる私達に向け、指導者自らが自省しつつ学ぶ姿勢を持ち続けることが大切であることなど、今後の在り方などについてアドバイスをいただくなど、大変有意義な講義となった。

その後、同大学の施設、設備を参加者全員で見学させていただき、充実した形で研修会を終えることができた。コロナ禍の中、またご多用のところ、ご講演いただいたアハメド・シャハリアル学長をはじめ、ご協力いただきました同大学の職員の皆様に深く感謝申し上げます。

[見学会]
日　時　令和３年10月１日(金)
　　15:40～16:40
会　場　株式会社　諏訪田製作所
参加者　18名

当地県央地域の産業界では自社の優れた技術を効果的にマネジメントし、業界トップクラスで活躍する企業は多い。その中で、世界でも高く評価されているニッパー型刃物、そのノウハウを活かし、機能的でデザイン性にも優れた新製品を数々ヒットさせる同社を見学させていただき、前半の研修会に続く、実践例とさせていただいた。

リニューアルした本社工場には、直営ショップ、カフェテリアが併設され、生産現場、工場の持つ従来のイメージを大きく変え、見学者は、同社のスタッフにご案内いただきながら、製造現場を見学することができる。



ニッパー型刃物製造特有の喰い合わせ、すり合わせ、研ぎの工程など、通常、見る機会がない製造工程や職人の皆さんの姿を全てオープンにしている。自社のアピールと社員のモチベーションアップに大きな効果が得られているとのことであった。

また、説明にあたって下さったスタッフの方の体験談、自社の人材教育、研修制度などもオープンにご説明いただいた。同社では近年、開かれた工場、オープンな職場を方針として挙げての独特なスタイルであった。

更に、近年、若手女性職人の採用も多く、従来のイメージを大きく変えている。

こうした職場環境の中で、新しい製品に対するアイデアが生まれ製品化されている。

同社は、このようにマネジメントの変革によって、現在も活躍を続けている。

優れた技術とものづくりのノウハウに、新たな意見、アイデアを効果的に合わせ、これからのものづくりに活用する実践例を通して、今後、工業界で有意な人材教育の在り方を考える良い機会となれば幸いである。

ご多用の中、貴重な機会をいただいた同社の皆様には心から御礼申し上げます。

（記・新潟県央工業高校　荒木　裕一）

工業化学研究会

見学会

新型コロナウィルス感染症予防等の事情を考え中止とした。

研究会

期　日　令和３年10月４日（月）
会　場　柏崎工業高校他
　　Google　meetによるリモート会議
参加者　５名

協議題

1　教育課程について

2　全国・北信越の当番割について

・工業化学系事務局、各種大会等輪番について

3　ものづくりコンテストについて

・令和４年度ものづくりコンテスト全国大会
　化学分析部門について

・令和４年度ものづくりコンテスト北信越大会
　化学分析部門について

4　その他

内　容

令和４年度ものづくりコンテスト全国大会が新潟県で開催される予定であり、またプレ大会として、ものづくりコンテスト北信越大会も行われるため、慎重に討議した。

今回は、初の試みとしてオンライン会議というかたちで新潟工業、長岡工業、柏崎工業の３校で５名の参加者で行った。人数の面や資料の事前準備など反省点もあったが貴重な時間となった。

（記・柏崎工業高校　古川　耕一）

建築研究会

技能検定３級　建築大工（大工工事作業）
実技研修

1　はじめに

今回、技能検定３級　建築大工（大工工事作業）実技研修を実施する背景には、県内において、その指導者不足が指摘されていることにあります。

今年度は本校を会場にして、建築科の指導者を対象に大工技能の指導向上に資するため実施しました。

2　研修主題

技能検定３級　建築大工実技研修

3　研修会場

県立新津工業高等学校　木造実習室

4　講師

山崎建築　若杉智之先生

5　研修日

令和３年１０月１４日（木）

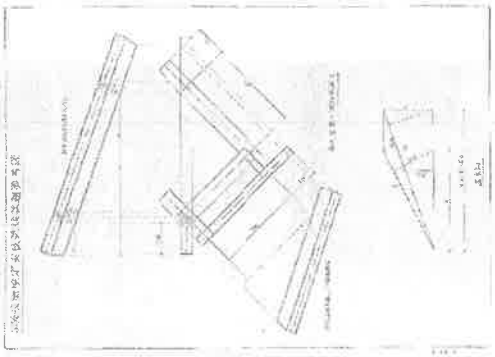
6　参加校・参加人数

新潟工業高等学校	建築科
新発田南高等学校	建築工学科
新潟県央工業高等学校	建設工学科
上越総合技術高等学校	建築環境科
新津工業高等学校	日本建築科

参加者１４名　実技講習者１１名

7　（1）原寸図の作成

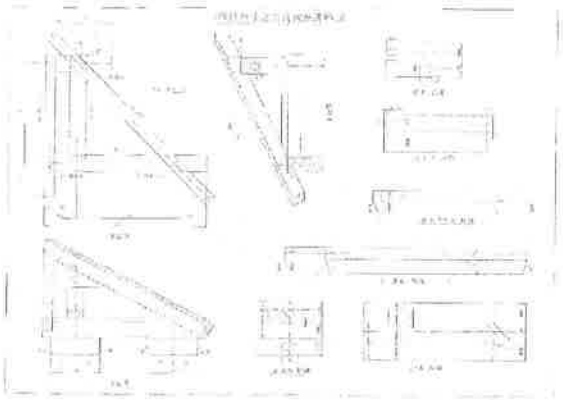
材料に墨付けを行うためには、寸法や角度を正確に把握しておく必要があります。技能検定３級の試験では課せられていませんが、寸法や角度の理解を深めるために、原寸図の作成を行いました。



資料①　３級技能検定実技試験課題参考図

（2）墨付け

作成した原寸図と、実技試験課題（資料②）の寸法角度を確認した上で墨付けを行います。製図などで使用しないＬ形の指矩と墨差しを使用して線を引くので初めての先生方には、道具の使い方から難しかったようでした。はじめに講師の若杉先生から見本を実演（写真①）していただき、その後各々で行いました。（写真②③）



資料②　３級技能検定実技試験課題図

写真①　山崎建築　若杉智之先生

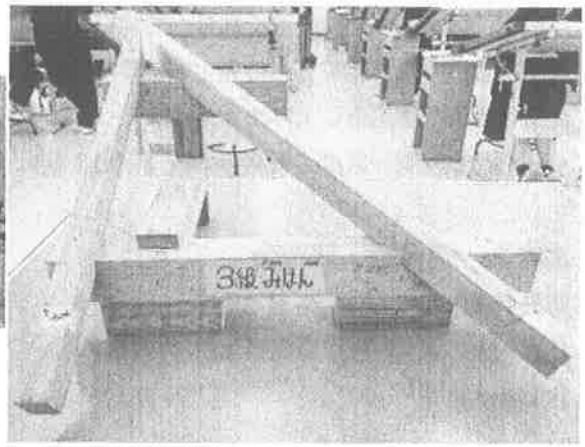
写真②③　研修風景

（３）加工・組立

加工・組立に関しては時間が無く、講師　若杉先生の実演を見学しました。（写真④⑤）匠の加工と素早さには、参加された先生方からどよめきが上がりただただ感心する様子が見られました。

写真④　見学風景

写真⑤　見学風景

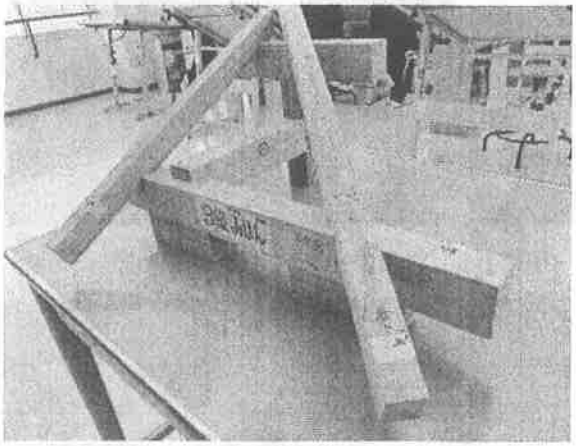


写真⑥　技能検定３級課題見本

８　終わりに

本校のように木組みによる伝統工法の実技を学習する高校は、全国的に数校しかありません。昔は、大工の棟梁が設計と施工の両方の知識と技能を持っており、「伝統工法」を用いて日本の各地で活躍していたのですが、現在では設計と施工の分

業化が進み、「伝統工法」よりも補強金物を用いた「在来工法」が主流になっています。本校では、「伝統工法」の技である木組みを学ぶことで、「在来工法」でも通用する技術者を育て社会に貢献することを目指しています。



写真⑦　技能検定３級課題見本

今回、このような実技研修の試みは初めてでしたが、日本文化の技と知識を絶やさぬよう、今後も研修の機会を設けて各工業高校の先生方で集まり、日本の伝統的な建築工法である「伝統工法」を学んでいけたらと思います。

最後に、案内の準備が遅くなり、お詫び申し上げますとともに、たくさんの先生方に参加していただき心より感謝申し上げます。

（記・新津工業高等学校　樋口正弘）

土木系　講演会・研究会

期日　令和３年11月26日（金）
会場　県立新潟県央工業高等学校 会議室
参加者　11名

本会は、当初、８月20日（金）に開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の第５波を受け、上記の期日に順延し開催することができました。

【講演会】

新潟県建設業協会三条支部長である小柳建設 株式会社 代表取締役ＣＥＯ 小柳　卓蔵　様から「工業高校に求めるモノ」という題目にてご講演をいただきました。新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、参加者が集合する形での研究会は開催できない可能性があったため、ご多様の中、事前にＤＶＤへ収録をしていただき、当日に上映し、その後、感想等を参加者にて共有しました。

講師の小柳様は、３代目社長に就任された後、社内のＤＸ（デジタルトランスフォーメーション）に取り組まれました。導入に至った経緯は、「コミュニケーション手段」、「データ管理」、「財務体質」を解決・改善するためです。成功事例として、ＮＥＴＩＳ（国土交通省によって運営されている民間企業等により開発された新技術に係るデータベース）に登録されている「Ａｌｌ－ｓｉｇｈｔｅ」やマイクロソフト社と共同開発した「Ｈｏｌｏｓｔｒｕｃｔｉｏｎ」の２つが紹介されました。

「Ａｌｌ－ｓｉｇｈｔｅ」は、災害発生状況を行政機関へ報告する際、これまでは現場で撮影した被災写真は会社に戻り所定のフォーマットへ貼り付けて提出していたものを、会社ではなくその場で携帯電話から位置情報や被災状況報告とともにクラウドサーバーにて共有できるようにしたものです。これにより、情報の迅速化、事務処理の負担軽減による生産性の向上が図れたとのことでした。

「Ｈｏｌｏｓｔｒｕｃｔｉｏｎ」は、専用のゴーグルを着用することで、現実空間に３次元物体（ホログラム）が現れる技術であり、仮想物体の情報を現実世界に融合させることができます。したがって、図面だけでは完成形がイメージしにくい橋梁やダムなどを立体的に捉えることできます。また、段階確認（行政機関が工事現場で必ず確認する項目）や工事打合せを、現場ではなく事務所で行う事例も始ったとのことでした。

以上のような取り組みにより、営業利益が上昇し、賞与支給月数の増加や残業時間の減少等の生産性向上が図れ、まさにＤＸの目的である「ＩＣＴを活用して、働き方や暮らし方をよりよくする」ことが実現されていました。

最後に小柳様から「ｅｘｐｅｒｉｅｎｃｅを増やそう！！」というご提案をいただきました。これは、先生が新しい情報を知らないと学生は知る術がな

い、先生と生徒が一緒に学ぶ場があることにより、学生が先生をリスペクトするようになるという理由からです。その手段として、土留め、舗装、浚渫、草刈り、除雪など地域のためとなる事業を通じた学びを行ってほしいとのことでした。

工業技術が日々進歩してことは間違いありません。このことを生徒に伝えるため、アンテナを高く張り、常に学び続けるという教員としての職責を再認識する講演会となりました。

【研究協議会】

講演会の感想に加え、各校の進路状況や課題を話し合いました。その中でＩＣＴ環境が整っていないためｉＰａｄを活かし切れないという声も上がりました。また、令和４年度は、本校を会場に第 22 回高校生ものづくりコンテスト全国大会測量部門が、11 月 12 日（土）・13 日（日）で行われます。これに向けて全国大会の成功を祈願し閉会となりました。

（記・新潟県央工業高等学校　松本　智）

ロボット技術研究協議会及び研究発表会

（中止になりました）

期　日　　令和４年１月２１日（金）
会　場　　長岡工業高校視聴覚室
参加者　　９２名予定（生徒７４名、教員１８名）

新型コロナウイルスのオミクロン株が爆発的に広がる中、開催日の１週間前に中止が決まった。内容としては、新潟工業高校が参加した「さんフェア埼玉」の中で行われた全国大会の発表、大学ロボコンで全国優勝した長岡技術科学大学を見学した長岡工業高校の発表、各ロボット競技の交流会を予定していた。

（記・長岡工業高等学校　名塚　武史）

商業部会

「ビジネス分野」研究会

1　期　日　令和３年11月24日（水）

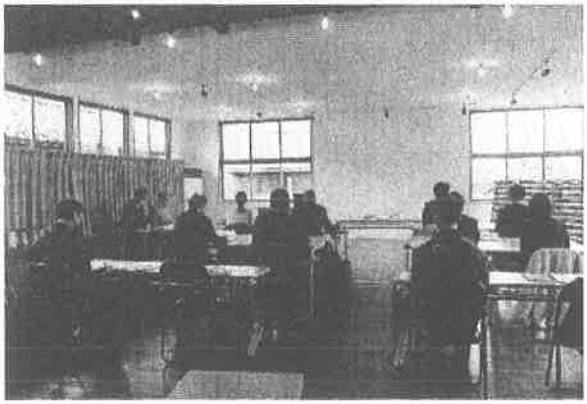
2　会　場　五泉ニット複合施設
LOOP&LOOP
（五泉ニット工業協同組合）
ラポルテ五泉

3　参　加　８校　14名

4　日　程

受　　付	13:00～13:20
開　　会	13:20～13:30
講　　演	13:30～14:10
質疑応答	14:10～14:20
指導講評	14:20～14:30
施設見学	14:30～14:40
移　　動	14:40～15:00
施設見学	15:00～15:50
閉　　会	15:50～16:00

※感染症対策のため、昼食をはさまず実施



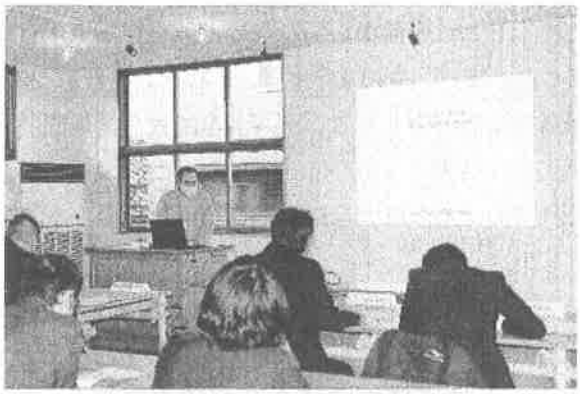
5　講　演

演題　「五泉ニットブランド化事業について」

講師　五泉ニット工業協同組合
事務局長　高橋　正春　様

社会経済の変容と市場変化により、産業環境はきわめて厳しい中、五泉ニットの事業者・職人たちは、魂を込めて技術を磨き、高品質な商品を世の中に送り出し、日本を代表するニット産地を形成している。

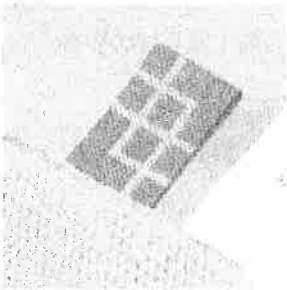
未来を担う若手後継者が多く存在し、一貫生産を可能とする五泉の技術力とポテンシャルを活かし、ニット産地のブランド化と競争力を高め、国内外に向けて「五泉といえばニット、ニットといえば日本の五泉」を目指し、次世代に継承することを目標としている。



重点推進としては、①ECサイトを含むダイレクト販売拡大、②五泉ニットブランド認証商品拡大、③海外市場開拓、④SDGsの推進、⑤ニットフェス拡大、⑥組合社屋拠点整備（LOOP&LOOP）

これらを３カ年計画で実施している。

②については、今治市のタオルが、佐藤可士和さんによるブランディングにより、ロゴをみると「今治産」とわかるため、五泉ニットも「五泉産」がわかるロゴ（右）をデザインし、その認証商品を拡大している。



⑤のニットフェスでは、高校生プロジェクトを取り入れ、五泉高校生が残糸で制作したノベルティを配布しており、今

年で４回目の実施となった。昨年度は感染症拡大により、他のイベントが中止になる中、縮小しつつも工夫して開催することができ、今年の取り組みに繋がっている。年々規模が拡大しており、今後は産業観光に結びつけたいと考えている。

６　指導講評

新潟県立教育センター　教育企画班
指導主事　南部　泰正　様

●「マーケティング」の改定のポイント

従来の「広告と販売促進」の指導項目を、プロモーション政策に整理した。マーケティングに関する具体的な事例について多面的・多角的に分析し、考察や討論を行う学習活動を取り入れるなど改善された。五泉高校で行っているニットフェスでの取り組みやフィールドワークは、今後必須となる。

●ICT 活用事例

・マーケティングで ICT を活用している学校

北海道小樽未来創造高等学校
愛媛県立松山商業高等学校
長崎県立諫早商業高等学校
熊本県立北稜高等学校

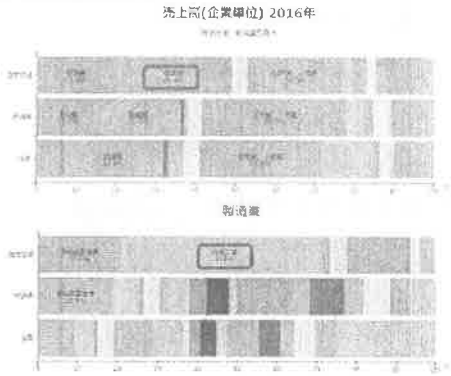
資料　社会に開かれた魅力ある商業教育の実現に向けて－Society5.0 時代の新しい商業教育の実践例－　全国商業高等学校長協会

・RESAS の活用

五泉市を分析し、活用の仕方を説明

例えば、五泉市の企業別売上高に注目すると、製造業が 29.4%を占めており、金額にすると 380 億円である。そのうち繊維産業が 49.6%で、187 億円を占めていることがわかり、五泉市にとって繊維産業は主要な産業であることが、この数値からも言える。

RESASの活用例



繊維産業の付加価値額は 1992 年に 373 億円であったが、2018 年には 96 億円と、減少率は 75％にのぼる。このことから、ブランド化事業のような取り組みが必要となった背景も説明ができる。

７　施設見学

・五泉ニット複合施設 LOOP＆LOOP（五泉ニット工業協同組合）

五泉ニットを購入する場所が無かったことや、県外から視察に来られた方々に歴史ある建物を喜ばれたことから、多くの人が訪れる施設をつくった。これまでニット関係者しか訪れる機会がなかった組合の建物をリフォームした。

・ラポルテ五泉

交流人口の拡大を目指し 2019 年に着工された。生涯学習エリア、産業振興エリア、共用エリアに分かれており、憩いと賑わいの新たな拠点、五泉の魅力をまるっと詰め込んだ場所を目指している。

水産部会

1 水産研究会

（1）期　日

令和3年11月26日(金)

（2）会　場

新潟県立海洋高等学校　大会議室

（3）日　程

受付	13:00～13:20
開会式	13:20～13:30
講演	13:30～14:40
研究発表	14:50～15:40
閉会式	15:50～16:00

（4）講演「DX（デジタルトランスフォーメーション）のこれから」

講師：

長岡公務員情報ビジネス専門学校
江田　健太　様

講演では、デジタルトランスフォーメーションがどのような定義なのかという基本的なところを中心に、実際に専門学校での活用事例等を含めながら話していただいた。

水産や日頃の業務の中で、DXをどのように活用していくかといった指針をご講演頂いた。教育のデジタルトランスフォーメーション化のスタート地点に立つために、ICT、タブレットやパソコンを使った双方向のデジタルコミュニケーションについて、話していただいた。タブレットやパソコンなどの端末、あるいはスマートフォンを実際に使用して、デジタルの考え方について話していただいた。講師の産学連携のデータ分析や授業を基本的な業務として行っている中で、企業から商品を提供してもらい、産学連携授業に取り組んだ経験から、ある商品のアンケートを、QRコードを用いてリアルタイムにデータの収集する事例の一つを、実際にスマートフォンを使って、示していただいた。

（5）研究発表

「ICTを活用した授業等実践」

水産資源科食品科学コース
教諭　井上　悠太

ICTを活用した授業実践について発表した。本校は夏の休校のときから、オンラインの授業を受けたり、授業ではオンラインのClassroomなどで課題を提出させたりという活用をした。今回は、食品製造の授業で実践をした。

ICT活用は、授業のまとめや復習で使い、基礎知識の定着を図ることをねらいとした。使用したアプリケーションはGoogle Classroomと、フォームを用いて、実験的に、まとめ、復習として小テストを行い、生徒がどれだけできるかを見るという活用をした。

「指導と評価の一体化」のための学習評価について

海洋開発科海洋技術コース
教諭　岩谷　和彦

11月18日に、県の指導主事から、来年度から始まる新学習指導要領に向けての、指導と評価の一体化のための学習評価について説明を受け、その内容を発表した。

進学数指導要領の評価については、1番目に知識および技能。2番目に思考力、判断力、表現力等。3番目に学びに向かう力、人間性等を育成するというものである。これから評価をつくる上での要点を、もう一度、確認をした。

家庭科部会

1　全県講習会

期　日　　令和３年８月６日（金）
会　場　　新潟ふれ愛プラザ

（１）部長挨拶

新潟県高等学校教育研究会家庭科部会部長
新潟県立長岡大手高等学校長　　山本　久

私たちが正しい知識・指導法を持って、生徒を指導することで、生徒が自分自身の成長を実感できるような授業をしてもらいたいと思います。いかに知識があってもスキルがあっても、他人に対する思いやりや態度を持つことが大切であり、人は色々な立場の違いを超えて共生しているといった内容をこの研修で学んでいきたいと思います。

（２）主管校校長挨拶

新潟県立新潟向陽高等学校長　宮崎　和子

会場の新潟ふれ愛プラザは障害者の自立と社会参加を目指す施設です。この地域は福祉ゾーンとして位置付けられ、本校は、地域の方の協力を得ながら校外実習・交流をさせてもらっています。本校の授業紹介の時間もありますので、参考にしていただければと思います。

（３）来賓挨拶

新潟県教育庁高等学校教育課指導第２係
指導主事　貝田　智子　様

令和４年度からの新学習指導要領の改訂では、生き抜くための資質能力を一層確実に育成することを目指すものであり、子どもたちに求められる資質能力とは何かを社会と共有し、連携する社会に開かれた教育課程としての役割が期待されています。

（４）講師紹介

【プロフィール（栗川治）】

経歴：　1959年新潟市生まれ。早稲田大学第一文学部哲学専攻卒業。1982年から2020年まで新潟県の公立高校社会科（公民科）教員を務める。20歳代後半に失明し、視覚障害のある教員として教育実践、社会運動を重ねる。

（５）講演

演題「みんな違って、だれも排除しない」
共生社会実現のためにーキーワードは多様性(diversity)と包摂(inclusion)－

講師　社会福祉法人新潟県視覚障害者福祉協会副理事長
元新潟県立新潟西高等学校教諭
栗川　治　様

①美辞麗句、美談の中／背後に

共生社会とは美しい言葉だが、障害者は感動の対象になりやすく、「感動しました」とすぐに言われる。こういう美しい言葉には気を付けなければいけない。色々とある問題を隠してしまう。

②みんな違う（身体の差異、多様性）

ダイバーシティ（多様性）とは人は皆、その存在価値において等しく尊いという人権概念を核にして、さらに、人は違うからこそ尊いという認識に立つ考え方をいう。

（ア）「障害」の多義性

障害を意味ごとに整理して見ていくと、いろいろな要素がある。

・心身の機能不全、損傷（インペアメント、障がい）
・行動の能力不全、無能力化（ディスアビリティ、障害）
・社会的障壁（バリア、障碍）
・不利な状態（ハンディキャップ）

（イ）障害の社会モデル

障害は個人の欠陥、個人の問題として考えられてきた。イギリスの障害者たちが、医学的個人モデル＝できなくさせている社会に問題がある、障害は社会にある、障害は社会問題と捉えることが大切だという考え方を広めた。

（ウ）病・障害の５つの側面

・できない
・痛み
・死（への傾き）
・異形
・危害

③だれも排除しない（社会的包摂）

例えば、障害のある人と共に生きることは難しいが、病院に隔離することはよくない。多様性と包摂が必要。誰も排除しない社会が大切である。

２０世紀に入ってからの障がいの考え方。

（ア）国際生活機能分類（ICF）　2001年，世界保健機関

・心身機能や身体構造のレベルで生じる障害
・活動のレベルで生じる障害
・参加のレベルで生じる障害

（イ）四つのバリア

『平成7(1995)年版　障害者白書』

・物理的障壁
・制度的障壁
・文化・情報面での障壁
・意識面での障壁

（ウ）インクルーシブ教育とインクルーシブ教育システム

包摂と排除、統合と分離。特別支援教育を問い直す。

④共生の技法としての合理的配慮

（ア）　自分も他人もたいせつに～みんな同じ（尊厳）、みんな違う（多様性）

（イ）「自立、迷惑をかけない」という呪縛からの解放～自立とは依存できるものを多く持っていることをいう。

（ウ）適切な自己主張、建設的な対話の必要性

⑤点字を書く体験

（６）新潟向陽高校の授業紹介

新潟県立新潟向陽高等学校

教諭　椎名　薫

新潟向陽高等学校のカリキュラム、授業の紹介

（7）施設見学・パラスポーツ体験

講師　新潟県障害者交流センター

所長　　佐々木 篤志　様

新潟ふれ愛プラザ内の施設見学と説明をしていただいた後、パラスポーツ体験として参加者全員でボッチャを行った。

①障害者交流センターの説明

②ボッチャのルール説明・体験

（8）指導・講評

新潟県教育庁高等学校教育課指導第２係

指導主事　貝田　智子　様

今回の学習指導要領の改訂では、「共生社会と福祉」の学習内容が加わって、生涯を通して家庭や地域の一員としての自覚をもって共に支え合って生きることの意義についての理解を深めることとされています。実習などの取り組みを紹介していただき、教科の特性を活かした取り組みがなされていると感じました。パラスポーツ体験では、どんなスポーツでも道具やルールを工夫すれば楽しめることがわかりました。

（9）閉会挨拶

新潟県高等学校教育研究会家庭科部会

副部長新潟県立荒川高等学校長

丸山　　綾子

令和３年１月の中央審議会の答申では、学校教育の多様性を高めることが必要であるとされています。栗川様のご講演からそのような多様な生活事象を協力・協働して捉え直し目の前の生徒に必要な支援を考える際に自分の立ち位置を確認し、多数派になってはいないか、という視点で指導方法や教材等を工夫することの大切さを学びました。

新潟向陽高等学校の椎名先生からの授業紹介からは、衣食住の実習例や福祉・防災教育を知ることができました。新潟県障害者交流センターの佐々木様からは施設見学とボッチャの講習をしていただき家庭科球技大会のような楽しい気持ちとなりました。

2　家庭科部会委員会

期　日　　令和３年１１月３０日（火）

会　場　　新潟県立長岡大手高等学校

　　済美会館

上記の予定で計画していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止とした。

3　研究成果の刊行

「家庭科研究第 57 号」発刊

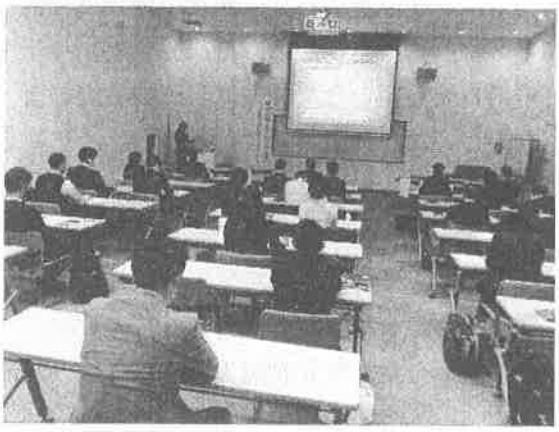
新潟県高等学校教育研究会家庭科部会、新潟県立教育センター、新潟県高等学校長協会家庭部会、全国高等学校家庭クラブ、全国高等学校家庭科技術検定などからの報告を集録。

保健体育部会

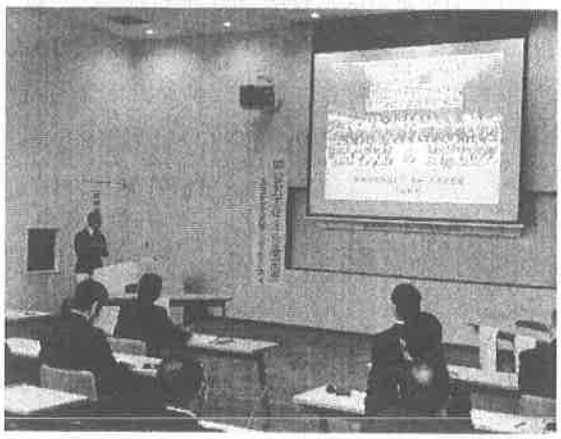
1　保健体育部会　全県研究会

期　日　　令和３年 11 月４日（木）
会　場　　新潟県健康づくり・スポーツ医科学センター　「大研修室」
参加者　　34 名

【講話】
新潟県教育庁保健体育課学校体育指導係
指導主事　　安井　真　　様
「新学習指導要領の指導と評価の一体化」



【講演】
新潟医療福祉大学
健康科学部健康スポーツ学科
教授　　下山　好充　様
「ゼロからのチーム作り・オリンピック選手の輩出まで」



2　全県養護教諭研修会

未実施

3　刊行物

研究集録（第 57 集）
保健体育部会 HP に掲載

生徒指導部会

1　全県委員会

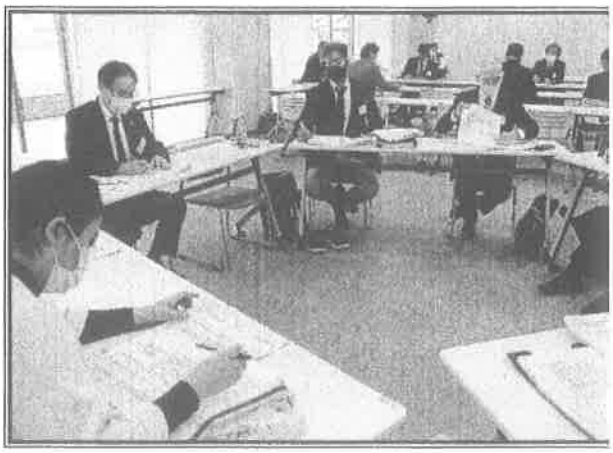
日時　第１回　７月１３日（火）
　　第２回　実施せず
　　第３回　（書面審議）

会場　県立巻高等学校　会議室

2　全県研究協議会

日時　１１月１８日（木）
会場　デンカビッグスワンスタジアム
内容　講演会及び研究協議会
〈午前〉講演会
演題　「ＳＮＳとのつきあい方」
講師　敬和学園大学
　　教授　一戸　信哉　様

〈午後〉研究協議会
第１分科会　「交通安全指導」について
第２分科会　「特別支援と生徒指導」について
第３分科会　「SNS・いじめ・自殺予防」について
発表及び講評
講評者
新潟県教育庁生徒指導課副参事指導主事
　　清水　謙一　様



3　地区研究会

開催中止

4　刊行物

生徒指導部会誌　第５４号
内容　研究内容・資料・部会活動報告
冊数　３５０冊

図書館部会

図書館部会では、年度当初に予定していた講演会・研究協議会を新型コロナウイルス感染防止のため、中止としました。なお、総会につきましては、書面審議としました。

また、刊行予定としていた『図書館部報　第６６号』も発刊を中止しました。

視聴覚部会

1　視聴覚部会総会

期　日　2月18日（金）

議　題

(1) 令和２年度事業総括

(2) 令和２年度決算報告

(3) 令和３年度事業計画

(4) 令和３年度予算案

※新型コロナウイルス対策のため
郵送による書面審議

2　指導者研修の実施

(1) 生徒講習会と共に実施した指導者研修

・春期講習会　3月20日（日）　9:30～

＊新型コロナ感染拡大防止のため中止予定

(2) ＮＨＫ校内放送指導者講座
オンライン形式による講座

期　日　12月27日（月）～28日（火）

参加者　３人

※当部会はＮＨＫ校内放送指導者講座への参加を推奨しています。読みや番組の指導方法や審査技術を習得することができ、修了時には、ＨＮＫ杯全国高校放送コンテストの審査員として認証する「審査員証」が交付されます。また、参加者には、ＮＨＫ新潟放送局からの補助金による研修補助制度も有り、参加しやすいものになっています。まだ、受講経験の無い会員の皆様にぜひご参加いただきたいと思います。

3　コンテストの主催及び共催

放送コンテスト県内大会の主催および高文連放送専門部との共催を行い、こうした大会の審査・運営を通して指導技術の向上を図っています。また、日程・大会結果は、本部会刊行誌「視聴覚教育研究」に掲載します。

(1) 新潟県高等学校放送コンテスト（主催）
6月15日(火)　参加者14人

(2) ＱＫ杯新潟県校内放送コンクール（共催）
11月13日(土)　参加者20人

※以上参加者数は事業参加教職員数

4　刊行物

名　称　視聴覚教育研究　第59号

発行日　令和３年度末

部　数　50冊

内　容　実践報告
コンテスト結果と事業報告
視聴覚部会規約
高等学校教育研究会規約
その他

定通部会

Ⅰ　定時制通信制教育総合研究会

期　日　令和３年７月28日（水）
当番校　市立明鏡高等学校
形　式　オンライン開催
主　題　「未来に向かって生徒の可能性を拓く定時制・通信制教育の推進」

1　令和元年度県外視察事業報告
県立佐渡高等学校相川分校

2　研究発表
①特別支援教育　県立堀之内高等学校
②生徒指導　県立西新発田高等学校

3　指導助言
高等学校教育課指導主事　田辺将吾　様

4　講演
演題「地域協働と探究的学びの可能性
～新指導要領と定通教育の意義～」
講師　Idea partners代表　山本一輝　様

Ⅱ　役員会総会・理事会

＜第１回＞
期　日　令和３年５月26日（水）
会　場　新潟翠江高等学校
議　事　令和３年度役員の委嘱について
報　告　令和２年度事業報告
令和２年度決算報告
協　議　令和３年度事業計画（案）
令和３年度予算（案）

＜第２回＞
期　日　令和４年２月10日（木）
形　式　書面審議
報　告　令和３年度事業報告
令和３年度決算中間報告
協　議　令和４年度事業計画（案）
令和４年度教育総合研究会（案）

Ⅲ　各校情報交換会

期　日　令和３年11月17日（水）
当番校　県立西新発田高等学校
形　式　書面協議
参加校　県内定通部加盟校13校
内　容　定時制教務、通信制教務、生徒指導、特別支援教育、進路指導　等について

Ⅳ　県外視察

期　日　令和３年11月29日（月）
〃　11月30日（火）
視察校　奈良県立大和中央高等学校
大阪府立大阪わかば高等学校
大阪府立成城高等学校
派遣校　市立明鏡高等学校
県立新潟翠江高等学校
県立堀之内高等学校

Ⅴ　刊行物

実践集録58号　350部
令和４年２月10日（木）発刊

高教研　国語部会　　令和３年度事業報告書

部長　北岸　信治

研究会・講習会等の開催	目的	国語授業の改善と指導力の向上		
	期日	令和３年６月４日（金）	令和３年11月30日（火）	令和４年１月25日（火）
	場所	書面審議	オンライン研究協議会	書面審議
	研究会名称	運営委員会	全県研究協議会	運営委員会
	研究会テーマ	年度計画及び全県研究協議会の実施について	「思考力・判断力・表現力の育成を目指した授業改善について」	年度活動の反省 次年度活動計画
	講師職氏名		新潟大学人文学部 磯貝淳一教授	
	研究協議職・氏名		① 実践発表 新潟高校 帆苅智子教諭 ② 指導講評 県立教育センター 近藤崇指導主事 ③ 講演 ④ 研究協議	
	参加者数	１３名	４６名	１３名
研修分野の分類		②	②③④	②
研究調査	主要テーマ	特になし		
	調査の期日 場所・参加者数			
図書購入	図書名 冊数	特になし		
研究成果刊行物出版	名称	『国語研究』第６８集		
	主な内容	各種研究研修報告等		
	冊数	２００冊		

①専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

高教研　　国語部会　令和４年度事業計画（案）

部長　北岸　信治

研究会・講習会等の開催	目的	国語授業の改善と指導力の向上		
	期日	６月中旬	１１月下旬	令和５年１月下旬
	場所	未定	未定	未定
	研究会名称	運営委員会	全県研究協議会	運営委員会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	年度計画の検討 全県研究協議会の実施計画	「新学習指導要領を踏まえた授業づくり～主体的・対話的で深い学びの実践を目指して～」 講演テーマ未定	年度活動の反省 次年度活動計画
	講師職氏名		講師未定	
	研究発表テーマ・職・氏名		発表者未定（２名） 指導主事講評 県立教育センター指導主事	
	参加者数	１３名	約７０名	１３名
研究分野の分類		②	①②③④⑤⑥	②
研究調査	主要テーマ	特になし		
	調査の期日場所・参加者数			
図書購入	図書名 冊数	特になし		
研究成果刊行物出版	名称	『国語研究』６９集		
	主な内容	研究協議会発表・講演内容、各種研究研修報告等		
	冊数	２００冊		

①専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

高教研　地理歴史・公民部会　令和３年度事業報告書

部長　遠間　春彦

研究会・講習会等の開催	目的	地理歴史・公民科の新学習指導要領及び大学入学共通テストに向けた研究を推進し、地理歴史・公民科教育の発展充実をはかる。		
	期日	６月25日(金)	８月20日(金)	11月22日(月)
	場所	オンライン (GoogleMeet)	内野まちづくりセンター他	県立正徳館高校
	研究会名称	オンライン研究協議会	地理研究会	公民研究会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	「1920年代の世界史と日本史の架橋―アジア太平洋戦争を避ける道の発掘―」	「新川開削より200年～伊藤五郎左衛門と日本酒の国際化～」	「新科目『公共』に向けた授業実践」
	講師職氏名	東京大学名誉教授・ 一橋大学名誉教授 油井 大三郎 様	地域教育コーディネーター 太田 和宏 様 そら野テラスマルシェ店長 藤田 友和 様 塩川酒造株式会社代表 塩川 和広 様	
	研究発表テーマ・職・氏名			佐渡中等教育学校 三國 稔男 教諭 堀之内高校 勝沼 剛史 教諭 正徳館高校 小林 真也 教諭
	参加者数	22人	15人	20人
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に		①④	⑤①	④③②
研究調査	主要テーマ			
	調査の期日 場所・参加者数			
購入図書	図書名 冊数			
研究成果刊行物出版	名称	『地理歴史・公民研究』第60集（令和４年３月末日刊行）		
	主な内容	【総会・研究会報告】 【研究論文】小林真也・中村崇志「令和４年度『地理総合』『歴史総合』『公共』の教科書選定の状況について」、関根正人「『日蓮聖人と法華文化』見学記」 【実践報告】中村崇志「室町ブームを歴史教育へ」 【私の教材紹介】堀川裕貴子「iPadに慣れさせたい～２つの試み～」 【大学入学共通テスト問題講評】中村崇志「世界史Ｂ」、上野宏彰「日本史Ｂ」、高橋真太「地理Ｂ」、奈良あすか「倫理」、山口美季「政治・経済」		
	冊数	３１０冊		

①専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

高教研　地理歴史・公民部会　令和４年度事業計画（案）

部長　遠間　春彦

研究会・講習会等の開催	目的	新潟県高等学校における地理歴史・公民科教育の研究実践を推進し、その発展充実をはかる。		
	期日	令和４年 ７月１日（金）	令和４年 ８月９日（火）	令和４年11月下旬
	場所	（新潟市内高校、対面とオンラインの併用を予定）	長岡高校栖風会館、他	（長岡市内を予定）
	研究会名称	研究協議会	地理研究会・巡検	地理・歴史研究会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	新学習指導要領における観点別評価について（仮）	歴史と未来をつなぐデザイン～長岡のものづくり・人づくり～（仮）	『地理総合』・『歴史総合』１年目の取組」
	講師職氏名	兵庫教育大学理事・副学長 吉水　裕也　様	（未定）	—
	研究発表テーマ・職・氏名	（未定）	—	（未定）
	参加者数	50人	20人	30人
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。主となるテーマを先頭に		①②	⑤①	③①④
研究調査	主要テーマ			
	調査の期日場所・参加者数			
購入図書	図書名 冊数			
研究成果刊行物出版	名称	『地理歴史・公民研究』第61集		
	主な内容	「研究論文・実践報告」「私の教材紹介」「地歴公民の広場」「大学入学共通テスト問題講評」		
	冊数	310冊		

①専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

高教研　数学部会　令和３年度事業報告書

部長　内田　卓利

研究会・講習会等の開催	目的		学力の向上を目指した数学教育の研究			
	期日		７月２日（金）	10月	10月29日（金）	10月または11月
	場所		上越地区 （Ｗｅｂ開催）	下越地区	中越地区 （長岡市立図書館）	新潟地区
	研究会名称		数学教育研究会	地区研究協議会	全県研究協議会	中高連絡協議会
	研究会テーマ		高等学校における数学教育の諸問題について	高等学校における数学教育の諸問題について	高等学校における数学教育の諸問題について	教科における中高の指導方法について
	講演	テーマ	「整数論と素数と暗号－数学は世界を守っている？－」	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止	「数学の面白さや有用性を実感させる」	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止
		講師	新潟大学理学部 理学科 数学プログラム 准教授 星　明考　様		文部科学省 初等中等教育局 主任視学官 長尾　篤志　様	
	研究発表	テーマ	「新潟大学入学試験問題の分析について」		「ＩＣＴを活用した教科指導」	
		発表者	高田高等学校 教諭 坂詰 哲馬		『端末のある授業』 新潟南高等学校 教諭 渡邉 允貴 『ICTを文房具に!』 燕中等教育学校 教諭 髙橋 貴央	
	参加者数		６３名		８３名	
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。主となるテーマを先頭に			①，③		②，③，④	
研究調査	主要テーマ		・数学力向上のための意欲を引き出す授業展開 ・数学の理解を深めたり学習指導を効率的に行うためのＩＣＴ活用			
	調査の期日場所・参加者数		各県内高等学校			
図書購入	図書名 冊数		なし			
研究成果刊行物出版	名称		「数学教育研究集録」第６０号			
	主な内容		会員の実践研究，研究大会報告及び講演内容			
	冊数		３５０冊			

①専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

高教研　数学部会　令和４年度事業計画（案）

部長　内田　卓利

研究会・講習会等の開催	目的		学力の向上を目指した数学教育の研究		
	期日		７月	10月	10月または11月
	場所		下越地区	上越地区	中越地区
	研究会名称		数学教育研究会	地区研究協議会	全県研究協議会
	研究会テーマ		高等学校における数学教育の諸問題について	高等学校における数学教育の諸問題について	高等学校における数学教育の諸問題について
	講演	テーマ			
		講師職・氏名			
	研究発表	テーマ	「新潟大学入学試験問題の分析について」		
		発表者職・氏名			
	参加者数				
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。主となるテーマを先頭に			①，③	①，②，③	②，③，④
研究調査	主要テーマ		・数学力向上のための意欲を引き出す授業展開 ・数学の理解を深めたり学習指導を効率的に行うためのＩＣＴ活用		
	調査の期日場所・参加者数		各県内高等学校		
図書購入	図書名冊数		未定		
研究成果刊行物出版	名称		「数学教育研究集録」第６１号		
	主な内容		会員の実践研究，研究大会報告及び講演内容		
	冊数		３５０冊		

①専門分野、②指導法、③実践報告、④学習指導要領、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

高教研　　理科部会　令和３年度事業報告書

部長　　岩﨑　啓

研究会・講習会等の開催	目的	理科教育の研究・発展に資する		
	期日	7月2日（金）	10月8日（金）	11月2日（火）
	場所	Web会議	新潟県立生涯学習センター	新潟明訓高等学校
	研究会名称	第1回役員会	地学教育研究会	生物教育研究会
	研究会テーマ「講演テーマ」		「南極の観測と生活」	「ゲノム編集マダイが食卓に上るまで(ゲノム編集の原理と応用)」
	講師職氏名		新潟地方気象台 広域防災管理官 杉田　興正 主任技術専門官 水野　太治	京都大学農学研究科 准教授　木下　政人
	研究発表 テーマ・職・氏名	R2事業報告 決算報告 R3事業計画 予算案	「ICTの活用事例」 長岡大手高等学校 林　正幸	「県立教育センター「教科別ICT研修」を利用した授業実践」 新潟中央高等学校 小田島　大 「防水小型ビデオカメラを用いた水中動画撮影～水深50cm以浅でとらえた淡水魚の躍動～」 十日町高等学校 馬場　吉弘 「1.授業小ネタ②　2.顕性・潜性」 新潟明訓高等学校 堀　昌明
	参加者数	24名	14名	37名
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に			①②	①②③④

①専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

研究会・講習会等の開催	目的	理科教育の研究・発展に資する		
	期日	11月18日(木)	1月27日(木)	
	場所	オンライン研修	Web会議	
	研究会名称	物理教育研究会	第2回役員会	
	研究会テーマ 「講演テーマ」	「臨界現象と場の量子論」		
	講師職氏名	新潟大学教育学研究科 教授　伊藤　克美		
	研究発表 テーマ・職・氏名	「Desmosグラフ計算機を用いた正弦波の式の授業」 長岡大手高等学校 山本　岳 「ICTを活用した授業について」 高田北城高等学校 村山　洵自 「生徒実験の紹介(光・音)」 新潟中央高等学校 本田　崇	R3事業報告 決算報告 R4事業計画 予算案	
	参加者数	13名	17名	
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に		①②③		
研究調査	主要テーマ			
	調査の期日 場所・参加者数			
図書購入	図書名 冊数			
研究成果刊行物出版	名称	理科研究集録第６１号		
	主な内容	研究報告・講演要旨		
	冊数	２１０冊		

①専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

1　　高教研　　理科部会　令和４年度事業計画（案）

部長　　岩﨑　啓

1	目的	理科教育の研究・発展に資する			
	期日	７月頃	未定	未定	未定
	場所	未定	下越・佐渡地区	下越・佐渡地区	中越地区
	研究会名称	第１回役員会	物理教育研究会	化学教育研究会	生物教育研究会
	研究会テーマ「講演テーマ」	未定	未定	未定	未定
	講師職氏名	未定	未定（県外講師）	未定（県内講師）	未定（県内講師）
	研究発表テーマ・職・氏名	R3事業報告 決算報告 R4事業計画 予算案 その他	未定	未定	未定
	参加者数				
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に		②⑤⑦	①②③④	①②③④	①②③④
研究会・講習会等の開催	目的	理科教育の研究・発展に資する			
	期日	未定	1月下旬 までに		
	場所	上越地区	未定		
	研究会名称	地学教育研究会	第２回役員会		
	研究会テーマ「講演テーマ」	未定	未定		
	講師職氏名	未定（県内講師）	未定		
	研究発表テーマ・職・氏名	未定	R4事業報告 決算報告 R5事業計画 予算案		
	参加者数				
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に		①②③④	②⑤⑦		
調査研究	主要テーマ	ICTの活用/新学習指導要領における観点別評価の実践			
	調査の期日 場所・参加者数	未定			
購入図書	図書名 冊数				
刊行物出版 研究成果	名称	理科研究集録第６２号			
	主な内容	研究報告・講演要旨			
	冊数	２２０冊			

①専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

高教研　芸術部会　令和３年度　事業報告書

部長　小堺　さとみ

研究会・講習会等の開催	目的	会員相互の研修を深め芸術教育の向上をはかる				
	教科	全体	音楽	美術		書道
	期日	11月16日(火)		8月20日（金）～11月30日(火)	8月4日(水)	1月21日(金)
	場所	アトリウム長岡(オンライン6名)		WEB開催※	小千谷西高等学校	さいわいプラザ長岡市中央公民館
	研究会名称	芸術部会総会研究協議会	音楽科研修会	美術科研修会	美術工芸科研究協議会	書道科研修会
	研究会テーマ「講演テーマ」	・総会（書面審議済） ・オンライン中継による授業公開（録画） ・グループウェアの活用について ・研究協議・分科会	新型コロナウイルス感染拡大のため実施せず	第58回全高美工研2021茨城大会「VIVA！Art！～価値でつながる美術、工芸教育～」	2025新潟大会準備検討会	・授業研究 造像記、摩崖、木簡、顔真卿の書を題材に指導法について詳細な意見交換を行う。 ・教材研究 鑑賞教材について拓本の実物等をもとに意見交換を行う。 ・新学習指導要領における観点別評価について
	講師職氏名	講演会なし			講演会なし	講演会なし
	研究発表テーマ・職・氏名	授業公開 〈音楽〉 新潟市立明鏡高等学 今井　優太　教諭 〈美術〉 新潟工業高等学校 鈴木　雅詩　教諭 〈書道〉 長岡農業高等学校 金子　達雄　教諭		※コロナウイルス感染予防の対策により、大会冊子購入及びWEB状による参加	・組織について ・大会テーマについて ・大会規模・会場について ・他団体との連携について　他	参加者全員による上記授業案の検討 <鑑賞教材提供> 中越高等学校 伊藤　優一　教諭
		総会は書面審議にて実施				
	参加者数	25名	名	12名	10名	7名
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。主となるテーマを先頭に		①、②、③、⑥	①、②、⑤、⑦	①、②、⑤、⑦	①、④	①、②、④
研究調査	主要テーマ	県外芸術教育先進校視察（Zoom等オンラインによる協力校の視察検討）				
	調査の期日 場所・参加者数					
図書購入	図書名 冊数	なし				
研究成果刊行物出版	名称	報告をまとめ、ＨＰにより配信する				
	主な内容					
	冊数					

①専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

高教研　芸術部会　令和４年度　事業計画書

部長　小堺　さとみ

研究会・講習会等の開催	目的	会員相互の研修を深め芸術教育の向上をはかる				
	教科	全体	音楽	美術		書道
	期日	11月（予定）	10月上旬	8月25日（木） 8月26日（金）	8月	未定
	場所	アトリウム長岡 オンライン参加	未定	Ｇメッセ群馬	未定	未定
	研究会名称	芸術部会総会 研究協議会	音楽科研修会	美術科研修会	美術工芸科 研究協議会	書道科研修会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	・総会（書面審議） ・現地及びオンラインによる講演会	吹奏楽指導法	第59回全高美工研 2022群馬大会 「美のいと」 ～つむぐ・むすぶ・つなぐで考える美術、工芸教育～	2025新潟大会 準備検討会	実技講習
	講師職氏名	選定中	未定	記念講演 山口　晃　氏	未定	未定
	研究発表テーマ・職・氏名		未定	第２分科会 「むすぶ」 ～授業を広げ、社会や生活とむすぶ取り組み～ 動画・文書発表 豊栄高等学校 片桐　泰紀　教諭	・組織について ・大会テーマについて ・大会規模・会場について ・他団体との連携について　他	未定
	参加者数	54名	18名	17名		17名
研修分野の分類 下記①～⑦から選択、複数選択可、主となるテーマを先頭に		①	①、④、⑤	①、②、③、④、⑤、⑥、⑦		①、②、④、⑦
研究調査	主要テーマ	講演会講師の講演内容による				
	調査の期日 場所・参加者数					
購入図書	図書名 冊数	なし				
研究成果刊行物出	名称	報告をまとめ、ＨＰにより配信する				
	主な内容	実践報告				
	冊数					

①専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

高教研　　英語部会　令和３年度事業報告書

部長　保坂　哲

研究会・講習会等の開催	目的	英語教育の推進と向上			
	期日	８月３日（火）	10月18日（月）		
	場所	オンライン開催	オンライン開催		
	研究会名称	夏季研修会	全県研究大会		
	研究会テーマ「講演テーマ」	県内教諭による実践紹介、情報交換	新学習指導要領の新機軸と評価について		
	講師職氏名	なし	関西外国語大学教授・中嶋洋一		
	研究発表テーマ・職・氏名	なし（参加者同士の実践紹介のため）	なし（講演メインだったため）		
	参加者数	23名	86名		
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。主となるテーマを先頭に		②③④	①②④		
研究調査	主要テーマ	なし			
	調査の期日場所・参加者数	なし			
図書購入	図書名冊数	なし			
研究成果刊行物出版	名称	「英語部会誌」第６６号			
	主な内容	研修会報告、実践報告など			
	冊数	２７０冊			

①専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

高教研　英語部会　令和４年度事業計画（案）

部長　保坂　哲

研究会・講習会等の開催	目的	英語教育の推進と向上			
	期日	８月	１０月	未定	
	場所	未定	未定	未定	
	研究会名称	夏季研修会	全県研究大会	プロジェクト研修会（研究講演会・ワークショップ等）	
	研究会テーマ「講演テーマ」	英語教育の推進と向上	英語教育の推進と向上	英語教育の推進と向上	
	講師職氏名	未定	未定	未定	
	研究発表テーマ・職・氏名	研究発表：県内英語科教諭	・講演 ・研究発表：県内英語科教諭等	研究講演会、ワークショップ等	
	参加者数	１００人	１００人	１００人	
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。主となるテーマを先頭に		①～⑦	①～⑦	①～⑦	
研究調査	主要テーマ	新学習指導要領を踏まえた指導と評価、ICT活用、授業改善			
	調査の期日場所・参加者数	未定			
図書購入	図書名冊数	未定			
研究成果刊行物出版	名称	「英語部会誌」６７号			
	主な内容	研修会報告、実践報告、寄稿等			
	冊数	350部			

①専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

高教研　農業　部会　令和　3　年度事業報告書

部長　椎谷　一幸

研究会・講習会等の開催	目的	農業教育の充実と発展	
	期日	令和３年12月23日（木）	令和３年11月26日（金）
	場所	アトリウム長岡	長岡農業高等学校
	研究会名称	農業教育研究大会 （高田農業高等学校）	農業教育課題研究会 （長岡農業高等学校）
	研究会テーマ 「講演テーマ」	新しい時代をリードする農業教育はどうあるべきか。 【GAP認証を活用した農業教育】 「GAPとは～農業大学校の取組」	農業鑑定競技における効果的指導方法の研究
	講師職氏名	新潟県農業大学校 教授兼稲作経営科長 吉川 力 様	高田農業高等学校 教諭　遠藤　正斗
	研究発表 テーマ・職・氏名	「グローバルGAP認証の取組と活用」 高田農業高校 教諭 岡田雅樹 村上桜ヶ丘高校 教諭 山本悠太	効果的な農業鑑定競技指導法について
	参加者数	29名	20名
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に		①・②・③	①・②・③
研究調査	主要テーマ		
	調査の期日 場所・参加者数		
図書購入	図書名 冊数		
研究成果刊行物出版	名称	「新潟県農業教育研究会誌」第５６号（新発田農業高等学校）	
	主な内容	研究論文・報告文・トピックス・その他	
	冊数	150冊	

①専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

高教研　農業　部会　令和　4　年度事業計画（案）

部長　椎谷　一幸

研究会・講習会等の開催	目的	農業教育の充実と発展		
	期日	令和4年8月4(木), 5日(金)	未定	
	場所	万代シルバーホテル	未定	
	研究会名称	農業教育研究大会 （高田農業高等学校）	農業教育課題研究会 （長岡農業高等学校）	
	研究会テーマ 「講演テーマ」	未定	未定	
	講師職氏名	未定	未定	
	研究発表 テーマ・職・氏名	未定	未定	
	参加者数	未定	未定	
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に		①②③	②③	
研究調査	主要テーマ			
	調査の期日 場所・参加者数			
図書購入	図書名 冊数			
研究成果刊行物出版	名称	「新潟県農業教育研究会誌」第５７号（新発田農業高等学校）		
	主な内容	研究論文・報告文・トピックス・その他		
	冊数	１７０冊		

①専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

高教研　工業部会　　令和　3　年度事業報告書

部長　高橋　俊司

研究会・講習会等の開催	目的	効果的な学習指導を目指す教育活動と技術革新に対応するための研修会活動並びに研究成果の発表			
	期日	9月30日（木）	10月1日（金）	10月14日（木）	直前に中止
	場所	新潟県東部産業団地	（株）諏訪田製作所	新津工業高校	長岡工業高校
	研究会名称	電気・電子見学会	機械・電子機械見学会・講習会	建築講習会	ロボット技術研究協議会
	研究会テーマ「講演テーマ」	メガワットの太陽光発電所見学	諏訪田製作所見学	3級大工技能検定講座	各ﾛﾎﾞｯﾄ競技大会報告、ﾛﾎﾞｯﾄ機構紹介
	講師職氏名	新潟県企業局発電管理センター岡本誠様		山崎建築 若杉　智之様	
	研究発表テーマ・職・氏名				
	参加者数	5名	18名	14名	
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。主となるテーマを先頭に		①⑤	①⑤	①②⑦	①③⑦
研究調査	主要テーマ				
	調査の期日場所・参加者数				
図書購入	図書名 冊数				
研究成果刊行物出版	名称	新潟県工業教育紀要第58号			
	主な内容	工業教育（講習会・見学会等の報告・工業教育研究発表事例・工業部会活動報告など）の令和3年度研究集録			
	冊数	220冊			

①　専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

高教研　工業部会　　令和　3　年度事業報告書

部長　髙橋　俊司

研究会・講習会等の開催	目的	効果的な学習指導を目指す教育活動と技術革新に対応するための研修会活動並びに研究成果の発表			
	期日	中　止	中　止	（　）	（　）
	場所				
	研究会名称	土木見学会	工業化学見学会		
	研究会テーマ「講演テーマ」				
	講師職氏名				
	研究発表テーマ・職・氏名				
	参加者数				
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。主となるテーマを先頭に					
研究調査	主要テーマ				
	調査の期日場所・参加者数				
図書購入	図書名冊数				
研究成果刊行物出版	名称	新潟県工業教育紀要第５８号			
	主な内容	工業教育（講習会・見学会等の報告・工業教育研究発表事例・工業部会活動報告など）の令和３年度研究集録			
	冊数	２２０冊			

①　専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

高教研　工業部会　　令和　3　年度事業報告書

部長　髙橋　俊司

研究会・講習会等の開催	目的	効果的な学習指導を目指す教育活動と技術革新に対応するための研修会活動並びに研究成果の発表			
	期日	9月30日（木）	10月1日（金）	10月4日（月）	11月26日（金）
	場所	新潟県東部産業団地	三条市立大学	リモートで実施	県央工業高校
	研究会名称	電気・電子研究会	機械・電子機械研究会	工業化学研究会	土木研究会
	研究会テーマ「講演テーマ」	再生エネルギー拡大に伴う課題	工業技術とマネジメント	教育課程、全国・北信越の当番割、ものづくりコンテスト等について	工業高校に期待すること～これから求められる土木技術者とは～
	講師職氏名	東北電力ネットワーク（株）　宮澤　和人　様	三条市立大学学長 Ahmed Shahriar様		小柳建設（株）小柳　卓蔵　様
	研究発表テーマ・職・氏名				
	参加者数	8名	18名	5名	9名
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。主となるテーマを先頭に		①⑤	①②	①②④	①②
研究調査	主要テーマ				
	調査の期日場所・参加者数				
図書購入	図書名				
	冊数				
研究成果刊行物出版	名称	新潟県工業教育紀要第58号			
	主な内容	工業教育（講習会・見学会等の報告・工業教育研究発表事例・工業部会活動報告など）の令和3年度研究集録			
	冊数	220冊			

①　専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

高教研　工業部会　　令和　3　年度事業報告書

部長　髙橋　俊司

研究会・講習会等の開催	目的	効果的な学習指導を目指す教育活動と技術革新に対応するための研修会活動並びに研究成果の発表			
	期日	中　止			
	場所				
	研究会名称	建築研究会			
	研究会テーマ「講演テーマ」				
	講師職氏名				
	研究発表テーマ・職・氏名				
	参加者数				
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。主となるテーマを先頭に					
研究調査	主要テーマ				
	調査の期日場所・参加者数				
図書購入	図書名冊数				
研究成果刊行物出版	名称	新潟県工業教育紀要第５８号			
	主な内容	工業教育（講習会・見学会等の報告・工業教育研究発表事例・工業部会活動報告など）の令和３年度研究集録			
	冊数	２２０冊			

①　専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

高教研　工業部会　令和　4　年度事業計画（案）

部長　髙橋　俊司

研究会・講習会等の開催	目的	効果的な学習指導を目指す教育活動と技術革新に対応するための研修会活動並びに研究成果の発表			
	期日	9月末～10月上旬	1月中旬～下旬	未定	未定
	場所	未定	長岡工業高校	未定	未定
	研究会名称	建築見学会	ロボット技術研究協議会	機械・電子機械見学会	電気・電子見学会
	研究会テーマ「講演テーマ」	「　」	各ﾛﾎﾞｯﾄ競技大会報告、ﾛﾎﾞｯﾄ機構紹介	「　」	「　」
	講師職氏名				
	研究発表テーマ・職・氏名				
	参加者数				
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。主となるテーマを先頭に		①⑤	①③⑦	①⑤	①⑤
研究調査	主要テーマ				
	調査の期日場所・参加者数				
図書購入	図書名冊数				
研究成果刊行物出版	名称	新潟県工業教育紀要第５９号			
	主な内容	工業教育（講習会・見学会等の報告・工業教育研究発表事例・工業部会活動報告など）の令和４年度研究集録			
	冊数	２２０冊			

①　専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

高教研　　工業部会　令和　4　年度事業計画（案）

部長　髙橋　俊司

研究会・講習会等の開催	目的	効果的な学習指導を目指す教育活動と技術革新に対応するための研修会活動並びに研究成果の発表			
	期日	未　定	未　定		
	場所	未　定	未　定		
	研究会名称	土木見学会	工業化学見学会		
	研究会テーマ「講演テーマ」	「　　」	「　　」	「　　」	
	講師職氏名				
	研究発表テーマ・職・氏名				
	参加者数				
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。主となるテーマを先頭に		①⑤	①⑤		
研究調査	主要テーマ				
	調査の期日場所・参加者数				
図書購入	図書名冊数				
研究成果刊行物出版	名称	新潟県工業教育紀要第５９号			
	主な内容	工業教育（講習会・見学会等の報告・工業教育研究発表事例・工業部会活動報告など）の令和４年度研究集録			
	冊数	２２０冊			

①専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

高教研　工業部会　令和　4　年度事業計画（案）

部長　髙橋　俊司

研究会・講習会等の開催	目的	効果的な学習指導を目指す教育活動と技術革新に対応するための研修会活動並びに研究成果の発表			
	期日	5月	9月末～10月上旬	未定	未定
	場所	未定	未定	未定	未定
	研究会名称	土木研究会	建築研究会・講習会	機械・電子機械研究会・講習会	電気・電子研究会・講習会
	研究会テーマ「講演テーマ」	建設に関する講演会「　」	「　」	「　」	「　」
	講師職氏名				
	研究発表テーマ・職・氏名				
	参加者数				
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。主となるテーマを先頭に		①③⑦	①③⑦	①③⑦	①③⑦
研究調査	主要テーマ				
	調査の期日場所・参加者数				
図書購入	図書名				
	冊数				
研究成果刊行物出版	名称	新潟県工業教育紀要第５９号			
	主な内容	工業教育（講習会・見学会等の報告・工業教育研究発表事例・工業部会活動報告など）の令和４年度研究集録			
	冊数	２２０冊			

①　専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

高教研　　工業部会　令和　4　年度事業計画（案）

部長　髙橋　俊司

研究会・講習会等の開催	目的	効果的な学習指導を目指す教育活動と技術革新に対応するための研修会活動並びに研究成果の発表			
	期日	未　定			
	場所	未　定			
	研究会名称	工業化学 研究会・講習会			
	研究会テーマ 「講演テーマ」	化学系学科の諸問題について 「　　」			
	講師職氏名				
	研究発表 テーマ・職・氏名				
	参加者数				
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に		①③④⑦			
研究調査	主要テーマ				
	調査の期日 場所・参加者数				
図書購入	図書名 冊数				
研究成果刊行物出版	名称	新潟県工業教育紀要第５９号			
	主な内容	工業教育（講習会・見学会等の報告・工業教育研究発表事例・工業部会活動報告など）の令和４年度研究集録			
	冊数	２２０冊			

①専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

高教研　商業　部会　令和　３年度事業報告書

部長　仲　野　孝

研究会・講習会等の開催	目的	経済社会の発展を担う商業教育
	期日	１１月２４日　（水）
	場所	五泉ニット工業協同組合
	研究会名称	新潟県高教研商業部会ビジネス分野研究会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	マーケティング 「五泉ニットブランド化事業について」
	講師職氏名	五泉ニット工業協同組合事務局長　高橋　正春様
	研究発表 テーマ・職・氏名	なし
	参加者数	８校　１４名
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に		①、⑤
研究調査	主要テーマ	なし
	調査の期日 場所・参加者数	
図書購入	図書名 冊数	なし
研究成果刊行物出版	名称	新潟県商業教育第５７号
	主な内容	１．研究論文　２．実務競技大会報告　３．専門委員会報告 ４．各種研究会報告　５．検定試験結果報告と分析　６．その他
	冊数	１００冊

①専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

高教研　　商業部会　　令和４年度事業計画（案）

部長　仲　野　　孝

研究会・講習会等の開催	目的	経済社会の発展を担う商業教育
	期日	11月中旬
	場所	三条商業高等学校
	研究会名称	未定
	研究会テーマ「講演テーマ」	未定
	講師職氏名	未定
	研究発表テーマ・職・氏名	未定
	参加者数	約20名
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。主となるテーマを先頭に		未定
研究調査	主要テーマ	なし
	調査の期日場所・参加者数	
図書購入	図書名冊数	未定
研究成果刊行物出版	名称	新潟県商業教育　第58号
	主な内容	1．研究論文　2．実務競技大会報告　3．専門委員会報告 4．各種研究会報告　5．検定試験結果報告と分析　6．その他
	冊数	約100冊

①専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

高教研　水　産　部会　令和　3　年度事業報告書

部長　増田　てつ志

研究会・講習会等の開催	目的	水産・海洋教育の充実と発展を目指す			
	期日	11／26（金）	（　）	（　）	（　）
	場所	県立海洋高等学校（糸魚川市）			
	研究会名称	新潟県高等学校教育研究大会・水産部会			
	研究会テーマ 「講演テーマ」	水産海洋教育の充実 水産関連産業・教科指導の変化への対応について 「DX(デジタルトランスフォーメーション)のこれから」	「　」	「　」	「　」
	講師職氏名	江田　健太			
	研究発表テーマ・職・氏名	①、②			
	参加者数	20人			
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。主となるテーマを先頭に					
研究調査	主要テーマ				
	調査の期日場所・参加者数				
図書購入	図書名 冊数	第三級海上無線通信士　他　26冊			
研究成果刊行物出版	名称	令和３年度　新潟県水産教育研究会			
	主な内容	研究成果報告			
	冊数	50冊			

①専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

高教研　水産部会　令和４年度事業計画（案）

部長　増田　てつ志

研究会・講習会等の開催	目的	水産・海洋教育の充実と発展を目指す			
	期日	11月25日（金）	（　）	（　）	（　）
	場所	未定			
	研究会名称	令和４年度水産教育研究会			
	研究会テーマ 「講演テーマ」	水産海洋教育の充実 水産関連産業・教科指導の変化への対応について	「　」	「　」	「　」
	講師職氏名	未定			
	研究発表テーマ・職・氏名	未定			
	参加者数	30名			
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に		未定			
研究調査	主要テーマ	未定			
	調査の期日場所・参加者数				
図書購入	図書名 冊数	未定			
研究成果刊行物出版	名称	令和４年度新潟県水産教育研究会			
	主な内容	研究成果報告			
	冊数	40冊			

①専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

高教研家庭科部会令和３年度事業報告書

部長　　山本　久

研究会・講習会等の開催	目的	家庭科教育の充実と発展	
	期日	８月６日（金）	１１月３０日（火）
	場所	にいがたふれ愛プラザ （新潟江南区）	長岡大手高等学校 済美会館
	研究会名称	全県講習会	部会委員会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	１講演 「みんな違って、だれも排除しない」 共生社会実現のために ーキーワードは多様性(diversity)と包摂(inclusion)ー ２授業紹介 ３施設見学・体験	中止
	講師職氏名	１講演 元県立新潟西高等学校教諭 栗川　治　様 ２授業紹介 県立新潟向陽高等学校教諭 椎名　薫 ３施設見学・体験 新潟県障害者交流センター副所長 佐々木　篤志　様	
	研究発表テーマ・職・氏名		
	参加者数	27人	
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に		①③⑤⑦	
研究調査	主要テーマ		
	調査の期日 場所・参加者数		
購入図書	図書名 冊数		
研究成果刊行物出版	名称	家庭科研究第57号	
	主な内容	講習会・研究協議・会員の研究など	
	冊数	140冊	

①専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

高教研家庭科部会令和４年度事業計画（案）

部長　　山本　久

研究会・講習会等の開催	目的	家庭科教育の充実と発展	
	期日	８月（未定）	
	場所	中越地区（未定）	
	研究会名称	全県講習会	
	研究会テーマ「講演テーマ」	未定	
	講師職氏名	未定	
	研究発表テーマ・職・氏名	未定	
	参加者数	30名	
研究調査	主要テーマ		
	調査の期日場所・参加者数		
図書購入	図書名冊数		
研究成果刊行物出版	名称	家庭科研究第58号	
	主な内容	講習会・研究協議・会員の研究など	
	冊数	140冊	

高教研　保健体育部会　令和３年度事業報告

部長　森川　幸彦

研究会・講習会等の開催	目的	保健体育科教員及び養護教員の研修	
	期日	11月４日（木）	
	場所	新潟県健康づくり・ スポーツ医科学センター 「大研修室」	
	研究会名称	保健体育部会全県研究会	全県養護教諭研修会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	1「新学習指導要領の指導と評価の一体化について」 2「ゼロからのチーム作り・オリンピック選手の輩出まで」	
	講師職氏名	1　新潟県教育庁 保健体育課学校体育指導係 ・指導主事　安井　真　様 2　新潟医療福祉大学 健康科学部健康スポーツ学科 教授　下山　好充　様	
	研究発表テーマ・職・氏名		
	参加者数	34名	
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に		①②③④	
研究調査	主要テーマ	なし	
	調査の期日場所・参加者数	なし	
購入図書	図書名 冊数	なし	
研究成果 刊行物の出版	名称	研究集録　第57集	
	主な内容	研究会、講演会の内容収録	
	冊数	０部・・・ＨＰに掲載	

①専門分野，②指導法，③実践報告，④新教育課程，⑤見学会，⑥公開授業，⑦実習・講習・展示

高教研　保健体育部会　令和４年度事業計画（案）

部長　森川　幸彦

研究会・講習会等の開催	目的	保健体育科教員及び養護教員の研修	
	期日	未定	令和４年10月下旬
	場所	未定	新潟テルサ
	研究会名称	保健体育部会全県研修会	全県養護教諭研修会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	未定	研究会テーマ:現代的健康課題を抱える児童生徒への支援と養護教諭の役割 講演テーマ:児童青年期の心の健康と精神症状の理解
	講師職氏名	未定	県立新発田病院 小児心身症科部長 塚野喜恵　様
	研究発表テーマ・職・氏名	未定	記録シートを活用した児童生徒支援と相談活動の推進 県内の養護教諭・研究推進委員から選抜
	参加者数	約50名	100名
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に		未定	①　②
研究調査	主要テーマ	なし	
	調査の期日場所・参加者数	なし	
購入図書	図書名 冊数	なし	
研究成果 刊行物の出版	名称	研究集録　第58集	
	主な内容	研究会、講演会の内容収録	
	冊数	０部・・・ＨＰに掲載	

①専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

高教研　生徒指導部会　令和３年度事業報告書

部長　北岸　信治

研究会・講習会等の開催	目的	生徒指導上の諸問題の把握と研鑽	
	期日	開催中止	11月18日（木）
	場所		デンカビッグスワンスタジアム
	研究会名称	上中越地区研究協議会	全県研究協議会
	研究会テーマ 「講演テーマ」		生徒指導の課題と対策 「ＳＮＳとのつきあい方」
	講師職氏名		敬和学園大学 教授　一戸　信哉　様
	研究発表 テーマ・職・氏名		研究協議 「交通安全指導について」 「特別支援と生徒指導について」 「SNS・いじめ・自殺予防について」 全体会 ・研究協議報告 ・指導助言 新潟県教育庁生徒指導課 副参事指導主事　清水 謙一 様
	参加者数		５０名
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に			①②⑦
研究調査	主要テーマ	育てる生徒指導・・・・・生徒の自発的・主体的な成長・発達を目指して	
	調査の期日 場所・参加者数	全県委員会を3回実施　場所：県立巻高等学校　会議室 第1回（７月13日22名）第2回実施せず　第3回書面審議（１月21日）	
購入図書	図書名 冊数	なし	
研究成果刊行物出版	名称	生徒指導部会誌　第54号	
	主な内容	研究内容・資料・部会活動報告	
	冊数	３５０冊	

①専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

高教研　生徒指導部会　令和４年度事業計画（案）

部長　北岸　信治

研究会・講習会等の開催	目的	生徒指導上の諸問題の把握と研鑽
	期日	令和４年11月17日(木) 予　定
	場所	デンカビッグスワンスタジアム
	研究会名称	全県研究協議会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	生徒指導の課題と対策 「講演（予定）」
	講師職氏名	未　定
	研究発表 テーマ・職・氏名	「学校現場における特別支援 に関する具体的な取り組み」 について(仮題)
	参加者数	５０名（予定）
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に		①②⑦
研究調査	主要テーマ	育てる生徒指導‥‥生徒の自発的・主体的な成長・発達を目指して
	調査の期日 場所・参加者数	全県委員会を中心に３回会議を行う 場所：県立巻高等学校等　　参加予定数　27名
図書購入	図書名 冊数	なし
研究成果刊行物出版	名称	生徒指導部会誌　第55号
	主な内容	研究内容・資料・部会活動報告
	冊数	４００冊

①専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

高教研　図書館　部会　令和３年度事業報告書

部長　菊池　啓一

研究会・講習会等の開催	目的	１生徒の実態を踏まえての読書指導あり方 ２情報化社会に対応した図書館運営のあり方			
	期日	10月27日（水） ⇒1/14に延期	1月14日（金） ⇒中止		
	場所	新潟ユニゾンプラザ	同左		
	研究会名称	総会・講演会	同左		
	研究会テーマ 「講演テーマ」	総会・講演会	同左		
	講師職氏名	「生徒もビックリする図書館のつくり方」	同左		
	研究発表テーマ・職・氏名	湯川　康宏 （埼玉県立飯能高等学校図書館司書）	同左		
	参加者数	20名参加予定	同左		
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に		①	同左		
研究調査	主要テーマ	講演に関する事前・事後アンケート　⇒　中止			
	調査の期日場所・参加者数	総会・講演会において持参・協議			
図書購入	図書名 冊数	なし			
研究成果刊行物出版	名称	「図書館部報」第66号　⇒　中止			
	主な内容	研究会・総会報告・研究会等参加報告、研究論文等			
	冊数	200冊			

①専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

高教研　図書館　部会　令和４年度事業計画（案）

部長　菊池　啓一

研究会・講習会等の開催	目的	1　生徒の実態を踏まえての読書指導のあり方 2　情報化社会に対応した図書館運営のあり方			
	期日	未定			
	場所	新潟ユニゾンプラザ			
	研究会名称	総会・講演会			
	研究会テーマ 「講演テーマ」	「生徒もビックリする図書館のつくり方」			
	講師職氏名	湯川　康宏 （埼玉県立飯能高等学校図書館司書）			
	研究発表テーマ・職・氏名	未定			
	参加者数	未定			
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。主となるテーマを先頭に		①、②			
研究調査	主要テーマ	講演に関する事前・事後アンケート			
	調査の期日場所・参加者数	総会・講演会において持参・協議			
図書購入	図書名 冊数	未定			
研究成果刊行物出版	名称	『図書館部報』第６６号			
	主な内容	研究会・総会報告、研究会等参加報告、研究論文等			
	冊数	２００冊			

①専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

高教研　視聴覚部会　令和３年度事業報告書

部長　横堀　真弓

研究会・講習会等の開催	目的	視聴覚に関わる諸活動を通して、教職員が、実践力を備えたメディアリテラシーを獲得することで、生徒の課題解決能力向上を促すための指導力を身につける。							
	期日	4月29日	4月29日	6月15日	8月9日	11月13日	11月下旬（ウイルス対策のため中止）	1月10日	3月20日
	場所	新潟市 ・新潟明訓高等学校 ・新潟高等学校	長岡市 ・中越高等学校 ・長岡工業高等学校	長岡市 長岡リリックホール	オンライン講習	柏崎市産業文化会館	新潟市内民間放送局	長岡市 まちなかキャンパス長岡	新潟市 新潟明訓高等学校
	研究会名称	新潟・下越地区初心者講習会	上越・中越地区初心者講習会	新潟県高校放送コンテスト主催事業	夏期講習会	ＱＫ杯校内放送コンクール共催事業	視聴覚技術研修会	放送技術者冬期講習会	放送技術者春期講習会研修会
	研究会テーマ「講演テーマ」	基礎的放送・視聴覚技術に関する指導方法の習得	基礎的放送・視聴覚技術に関する指導方法の習得	コンテストの評価方法	アナウンス・朗読部門の指導方法	コンテストの評価方法	番組制作・報道技術に関する現場見学	北信越大会に向けた読みの実践的指導方法	ＮＨＫ杯に向けた番組の実践的指導方法 放送・視聴覚技術の指導方法
	講師職氏名	高文連専門部役員	高文連専門部役員	ＮＨＫ専門職ディレクターアナウンサー	高文連専門部役員	ＮＨＫ専門職ディレクターアナウンサー	民間放送局ディレクターアナウンサー	高文連専門部役員	高文連専門部役員 外部講師
	研究発表テーマ・職・氏名								
	参加者数	１１人	５人	２２人	１４人	１７人	０人	１１人	１５人
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。主となるテーマを先頭に		②指導法 ⑦実習・講習	②指導法 ⑦実習・講習	①専門分野	②指導法 ③実習・講習	①専門分野	②指導法 ⑤見学会 ⑦講習	②指導法 ③実習・講習	②指導法 ③実習・講習
調査研究	主要テーマ	第４４回校内放送指導者講座							
	調査の期日場所・参加者数	１２月２７日（月）～２８日(火)　オンライン講習　３名参加							
購入図書	図書名								
	冊数								
研究成果刊行物出版	名称	「視聴覚教育研究第５９号」							
	主な内容	実践研究報告 令和３年度のコンテスト結果と事業報告 視聴覚部会規約・高等学校教育研究会規約							
	冊数	５０冊							

①専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

高教研　　視聴覚部会　令和４年度事業計画（案）

部長　横堀　真弓

研究会・講習会等の開催	目的	視聴覚に関わる諸活動を通して、教職員が、実践力を備えたメディアリテラシーを獲得することで、生徒の課題解決能力向上を促すための指導力を身につける。							
	期日	4月29日	4月29日	6月中旬	8月7日	11月13日	11月下旬	1月9日	3月21日
	場所	新潟市 ・新潟明訓高等学校 ・新潟高等学校	長岡市 ・中越高等学校 ・長岡工業高等学校	長岡市 長岡リリックホール	オンライン講習	新潟市 新潟明訓高等学校	新潟市内 民間放送局	長岡市 まちなかキャンパス長岡	新潟市 新潟明訓高等学校
	研究会名称	新潟・下越地区初心者講習会	上越・中越地区初心者講習会	新潟県高校放送コンテスト主催事業	夏期講習会	ＱＫ杯校内放送コンクール共催事業	視聴覚技術研修会	放送技術者冬期講習会	放送技術者春期講習会研修会
	研究会テーマ「講演テーマ」	基礎的放送・視聴覚技術に関する指導方法の習得	基礎的放送・視聴覚技術に関する指導方法の習得	コンテストの評価方法	アナウンス・朗読部門の指導方法	コンテストの評価方法	番組制作・報道技術に関する現場見学	北信越大会に向けた読みの実践的指導方法	ＮＨＫ杯に向けた番組の実践的指導方法 放送・視聴覚技術の指導方法
	講師職氏名	高文連専門部役員	高文連専門部役員	ＮＨＫ専門職 ディレクター アナウンサー	高文連専門部役員	ＮＨＫ専門職 ディレクター アナウンサー	民間放送局 ディレクター アナウンサー	高文連専門部役員	高文連専門部役員 外部講師
	研究発表テーマ・職・氏名								
	参加者数	１０人	１０人	２０人	１５人	２０人	０人	１０人	１５人
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。主となるテーマを先頭に		②指導法 ⑦実習・講習	②指導法 ⑦実習・講習	①専門分野	②指導法 ③実習・講習	①専門分野	②指導法 ⑤見学会 ⑦講習	②指導法 ③実習・講習	②指導法 ③実習・講習
調査研究	主要テーマ	第４５回校内放送指導者講座							
	調査の期日場所・参加者数	１２月下旬　東京都千代田放送会館　　２名程度							
購入図書	図書名								
	冊数								
刊行物出版 研究成果	名称	「視聴覚教育研究第６０号」							
	主な内容	実践研究報告 令和４年度のコンテスト結果と事業報告 視聴覚部会規約・高等学校教育研究会規約							
	冊数	５０冊							

①専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

高教研定通部会　令和３年度事業報告

部長　小林　麻利子

研究会・講習会等の開催	目的	未来に向かって生徒の可能性を拓く定時制･通信制教育の推進	
	期日	令和３年７月28日（水）	令和３年11月17日（水）
	場所	新潟市教育委員会を会場として、「Zoom」を活用したオンライン開催とした	県立西新発田高等学校を当番校として、書面協議とした
	研究会名称	令和３年度新潟県高等学校定時制通信制教育総合研究会新潟県高等学校通信制教育研究会	令和３年度新潟県高等学校定時制通信制教育研究協議会情報交換会
	研究会テーマ「講演テーマ」	「地域協働と探究的学びの可能性～新学習指導要領と定通教育の意義～」	県内定時制通信制高等学校情報交換会
	講師職氏名	Idea partners代表　山本　一輝　様	
	研究発表テーマ・職・氏名	研究発表① 「本校における特別支援教育について」 県立堀之内高等学校教諭　中村恵美子 研究発表② 「本校の生徒指導の現状と課題」 県立西新発田高等学校教諭　馬場　聡	① 定時制教務 ② 通信制教務 ③ 生徒指導 ④ 特別支援教育 ⑤ 進路指導
	参加者数		県内定時制・通信制課程を置く高等学校13校
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。主となるテーマを先頭に		②③④	②④
研究調査	主要テーマ	先進校視察（教育課程、生徒指導、特別支援教育など）	
	調査の期日場所・参加者数	期　日　令和３年11月29日（月）、30日（火） 視察校　奈良県立大和中央高等学校、大阪府立大阪わかば高等学校 大阪府立成城高等学校（計３校） 視察者　県立新潟翠江高等学校教諭、県立堀之内高等学校養護教諭、 市立明鏡高等学校教諭　３人	
図書購入	図書名 冊数		
研究成果刊行物出版	名称	実践収録58号	
	主な内容	令和３年度新潟県高等学校定時制通信制教育総合研究会 新潟県高等学校通信制教育研究会報告　他	
	冊数	350冊	

①専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

高教研定通部会　令和４年度事業計画

部長　小林　麻利子

研究会・講習会等の開催	目的	未来に向かって生徒の可能性を拓く定時制･通信制教育の推進	
	期日	令和４年７月26日（火）	令和４年11月10日（木）
	場所	ホテルイタリア軒 ※又はオンライン開催	県立出雲崎高等学校
	研究会名称	令和４年度新潟県高等学校定時制通信制教育総合研究会新潟県高等学校通信制教育研究会	令和４年度新潟県高等学校教育研究会定通部会情報交換会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	未来に向かって生徒の可能性を拓く定時制・通信制教育の推進 情熱と使命感あふれる教育活動の創造 「特別支援教育の現状と通級による指導」（仮）	県内定時制通信制高等学校情報交換会
	講師職氏名	県立はまぐみ特別支援学校 校長　藤田　綾子　様	
	研究発表テーマ・職・氏名	①テーマ未定 市立明鏡高等学校教諭 ②テーマ未定 県立出雲崎高等学校教諭	① 定時制教務 ② 通信制教務 ③ 生徒指導 ④ 特別支援教育 ⑤ 進路指導　（予定）
	参加者数	160人	60人
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。主となるテーマを先頭に		②③④	①⑥
研究調査	主要テーマ	県外先進校視察（教育課程、生徒指導、特別支援教育など）	
	調査の期日場所・参加者数	未定	
図書購入	図書名 冊数		
研究成果刊行物出版	名称	実践集録59号	
	主な内容	上記定時制通信制教育総合研究会報告　等	
	冊数	350冊	

①専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

高教研　情報部会　令和４年度事業計画（案）

部長　吉川　保

研究会・講習会等の開催	目的	情報科教育の充実と発展			
	期日	７月（予定）	10月（予定）		
	場所	上越地区 （Ｗｅｂ会議）	中越地区 （Ｗｅｂ会議）		
	研究会名称	情報教育研究会	全県研究協議会		
	研究会テーマ 「講演テーマ」	情報教育の課題 「大学入学共通テスト『情報』試作問題・サンプル問題から考察する「情報Ⅰ（仮）」	情報教育の課題 「文書作成ソフトでできる情報デザイン～情報デザインの授業計画の検討～（仮）」		
	講師職氏名	（未定）	（未定）		
	研究発表 テーマ・職・氏名	大学入試を見据えた情報教育の実践（仮） 県内情報科担当教諭等	情報教育の学習評価の方法（仮） 県内情報科担当教諭等		
	参加者数	８０名（予定）	８０名（予定）		
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。主となるテーマを先頭に		①，②，③	①，②，③		
研究調査	主要テーマ	情報と情報技術を適切かつ効果的に活用するための資質・能力の育成			
	調査の期日 場所・参加者数	県内高等学校			
図書購入	図書名 冊数	未定			
研究成果刊行物出版	名称	「情報教育研究集録」第１号			
	主な内容	会員の実践研究，研究大会報告及び講演内容			
	冊数	２００冊			

①専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

令和３年度新潟県高等学校教育研究会理事会（書面審議）録

＜理事会の中止と書面審議までの経緯＞

４月２７日（火）

・新型コロナウイルス感染症の感染防止の観点にもとづき、会長、副会長、顧問での協議を経て、「令和３年度　理事会」の中止を決定

・「令和３年度新潟県高等学校教育研究会理事会」を書面審議とする旨の文書をメールにて送付

５月１８日（火）

・「令和３年度　高教研理事会」書面審議資料をメールにて送付

５月２６日（水）

・「令和３年度　高教研理事会」再審議をメールにて依頼

６月３日（木）

・令和３年度新潟県高等学校教育研究会に係る審議事項の結果について下記により（報告）

記

高教研第１０号
令和３年６月３日

県高等学校教育研会
役　員　様

県高等学校教育研究会会長
県立新潟南高等学校長
勝　山　宏　子

令和３年度新潟県高等学校教育研究会に係る
審議結果報告および運営に係る連絡

日頃より、当会の運営に御協力いただき感謝申し上げます。
さて、標記について御報告するとともに、本年度の運営に関し連絡申し上げます。

１　令和３年度新潟県高等学校教育研究会に係る審議事項について
御審議いただきありがとうございました。令和３年度の審議事項につきましては、役員書面審議を経た後、委員会書面審議を実施いたしました。その結果、次のようになりましたので御報告いたします。

＜審議結果＞

１．	令和２年度事業報告	承認
２．	令和２年度決算報告	承認
３．	令和３年度役員（案）	承認
４．	令和３年度委員および会員数	承認
５．	令和３年度事業計画（案）	承認
６．	令和３年度予算（案）	承認

2　Web会議システムを利用した会議や研修会の実施について
　Web会議システムを利用した会議や研修については、次の点に御留意ください。
(1) 費用について
　会議費等として各部会費から支出する場合は、「契約証」、「請求証」、「領収証」などの証憑により支出の証明を明確に行ってください。
(2) アカウント等の管理
　(1) により取得されたアカウント等は、高教研の部会としての活用の範囲内において適切に管理・運用してください。

3　令和３年度の別途協議事項
　次の事項について、別途協議を進めます。
(1) 教科「情報」を研究する部会について
(2) 非常勤講師等の会員の研究会への参加促進について
(3) 理事、委員の選出と関連事項について

＜令和３年度協議事項に係る理事会等について＞

令和３年度の別途協議事項
(1) 教科「情報」を研究する部会について
(2) 非常勤講師等の会員の研究会への参加促進について
(3) 理事、委員の選出と関連事項について
これらについて、下記のように審議を行いました。

９月２７日（月）
・令和３年度新潟県高等学校教育研究会三役会（オンライン会議）を実施
１０月１日（金）
・令和３年度新潟県高等学校教育研究会理事会（オンライン会議）を実施
１０月２２日（金）
・令和３年度新潟県高等学校教育研究会委員会（オンライン会議）を実施
１１月２日（火）
・令和３年度新潟県高等学校教育研究会理事会・委員会に係る報告をメールにより実施

高教研第17号

令和３年11月２日

県高等学校教育研会
理　事　様
委　員　様

県高等学校教育研究会会長
県立新潟南高等学校長
勝　山　宏　子

令和３年度県高等学校教育研究会理事会・委員会に係る報告

日頃より、当会の運営に御協力いただき感謝申し上げます。
この度は、当研究会の理事会（10月1日）及び委員会（10月22日）において、御審議いただきありがとうございました。
このことについて、下記のとおり御報告いたします。

記

1　会議について
＜理事会＞
理事66名（定足数33名）のところ、参加者35名、委任状25通により成立
＜委員会＞
委員113名（定足数57名）のところ、参加者38名、委任状53通により成立

2　審議結果
(1) 情報部会の設立について　承認
(2) 規約の改正　承認
(3) 非常勤講師等の参加にかかる交通費の補助について　承認

3　今後の動きについて
この度の提案事項は、上記会議を以て議決いたしました。
承認いただいた事項については、令和４年度からの実施とします。
また、これに関連し、次のように進めます。
○「情報部会」役員の選出
・理事より推薦いただき、別途承認・不承認についてお諮りします。
○「規約」について
・令和３年11月１日付けで改正します。（別紙１）
○非常勤講師等の参加にかかる交通費の補助について
・別紙２のとおり

※ 規約（別紙１）は本書の規約頁に掲載しております。

別紙２

高等学校教育研究会　申し合わせ事項

１　非常勤講師への交通費補助について

非常勤講師の参加を促す目的で、各部会において予算配当の範囲内で非常勤講師が参加する場合の交通費を補助できることとする。

・運用の開始日・・・令和４年４月１日
・補助の上限額・・・１人当たり２，０００円（年間）

２　交通費補助についての補足事項

(1) 研修については正規の職員は出張、非常勤講師（会計年度任用職員）は研修への参加は本来業務とは扱われず報酬が支払われないため、校長は出張を命令することができない。非常勤講師が研修会への参加を希望する場合は、勤務としてではなく自主的な研修として取り扱う。ただし、参加する場合、部会から交通費を補助することができる。

(2) 研修は対面で行うほか、オンラインにより実施することも検討する。その際、非常勤講師は自宅等においてオンラインで研修に参加することができる。ただし、その時間を勤務時間として認めることはできない。

＊上記（1）、（2）の服務及び旅費の取扱については、高等学校教育課管理係へ照会し、回答を得た内容を踏まえている。

＜「情報部会」設立に伴う役員の選出＞

１１月９日（火）
・「情報部会」設立に伴う役員推薦について理事会に書面で依頼

１１月２９日（月）
・「情報部会」設立に伴う役員について「委員会」書面審議

１２月３日（金）
・「情報部会」設立に伴う役員選出に係る報告

高教研第22号

令和3年12月3日

県高等学校教育研会
理　事　様
委　員　様

県高等学校教育研究会会長
県立新潟南高等学校長
勝　山　宏　子

県高等学校教育研究会「情報部会」設立に伴う
役員選出に係る報告

日頃より、当会の運営に御協力いただき感謝申し上げます。
この度は、標記に関して審議等いただき誠にありがとうございました。このことについて、下記のとおりとなりましたことを御報告いたします。

記

1　審議事項
「情報部会」役員推薦について

2　結果
＜理事会＞
理事66名のところ、回答御提出61名、承認61名
＜委員会＞
委員113名のところ、反対の御意見なし

以上により、「情報部会」役員については別紙のとおりとする。

別紙

県高等学校教育研究会「情報部会」役員

	役員氏名	所属高等学校・職
部長	吉川　保	柏崎高等学校・校長
副部長	堀内　義博	新潟県央工業高等学校・校長
	西村　健一	三条東高等学校・教頭
	立川　純	国際情報高等学校・教頭
	羽二生　大輔	高田高等学校・教頭
幹事	関川　裕介	巻高等学校・教諭

令和３年度の活動から

1　研究会等

今年度は、新型コロナウイルス感染症の感染防止の観点から、各部会の特性や現状に応じて研究会（講習会・見学会・発表等）が実施されました。詳細については一覧を御覧ください。

2　研究助成等に関して

近年は会員数の減少傾向が続いております。それに伴う会費収入の減少のため、予算は厳しい状況が続いています。このような状況の中で一般財団法人新潟県教職員厚生財団様及び公益財団法人日本教育公務員弘済会新潟支部様からは、多額の助成をいただいております。紙面を借りて改めて感謝申し上げます。

3　会の運営について

(1) 高教研ホームページについて

平成 26 年８月に開設した高教研ホームページですが、各部会から積極的に御活用いただけるよう取り組んでおります。しかしながら、十分な対応を行う事ができませんでした。各部会の事業の内容や研究成果を広く発信出来るような視点で改善策を検討し、更なるＨＰの活用促進に努めていきたいと考えております。また、郵送コスト圧縮のために、メールとホームページを積極的に活用して経費を節減しております。各種様式をホームページからダウンロードすることで、各部会等との連携強化と運営の効率化を図っています。今後も有効に活用くださるようお願いします。

新潟県高等学校教育研究会ホームページ　http://www.kokyoken.nein.ed.jp/

(2) 会員募集方法について

加入申込については、電子メールによる申込とし、また、入会費の納入に係る「振込依頼書」は郵送にてお届けしました。次年度に向け、申込み方法や期限などを明確にお伝えできるよう改善していきたいと考えております。

年度始めの御多用の中、各校において当会への加入に係るお声がけや加入申込み業務を行っていただき感謝申し上げます。

(3) 会計取扱要領について

会計の適正な執行及び透明性確保の観点から、平成 29 年度に「部会会計取扱要領」を定め施行しています。これに則り、適切な運用に御協力いただき感謝申し上げます。

今後、各部会のよりよい運営といった観点で、「部会会計取扱要領」等について見直し改善を進めていきたいと考えています。

4　高教研の活性化について

今年度は、高教研の活性化に向け、令和４年度からの「情報部会」の新設、「規約」の改正、非常勤講師等の研修への手立てなど、組織全体に係る改定を行いました。これからも、本会が更によりよいものとなれるよう事務局運営に努めてまいります。

各部会におかれましては、時代に即した研究や協議を深めていただくとともに、その成果・情報を年報や高教研ホームページ等も活用しながら広く発信いただき、多くの先生方への加入に繋げていただければと思います。

（文責・幹事：新潟南高等学校　教頭　小熊　直子）

令和3年度　収支決算書

収入の部

区　分	当初予算額(a)	最終予算額	決算額(b)	比較増減(b-a)	摘　要
会　費	3,140,000		3,164,000	24,000	年額一人¥2,000×1570人（追加会員¥2,000×12人）
助成金	855,000		825,000	△ 30,000	県教職員厚生財団(40万)・教育公務員弘済会(25万)・外部団体から部会へ補助（数学・家庭・視聴覚・定通）
雑収入	20		42	22	本部利息(¥38)・部会利息(¥4)
前期繰越金	176,220		176,220	0	事務局関係費・予備費繰越
繰越金（積立含む）	6,137,197		6,137,197	0	
合　計	10,308,437		10,302,459	△ 5,978	

支出の部

Ⅰ部会別

区　分	当初予算額（積立金を含む）	最終予算額(a)（積立金を含む）	決算額(b)	次年度積立金(a-b)	摘　要					備考
					研究大会	研究調査	研究図書	研究成果刊行	その他	
1．国　語	450,131	450,132	228,960	221,172	33,160	0	0	195,800	0	利息(¥1)
2．地歴公民	460,982	460,982	266,479	194,503	141,079	0	0	125,400	0	
3．数　学	1,248,993	1,248,993	227,155	1,021,838	154,155	0	0	73,000	0	
4．理　科	660,718	660,718	206,376	454,342	117,376	0	0	89,000	0	
5．芸　術	443,930	443,930	62,931	380,999	62,931	0	0	0	0	
6．英　語	1,843,911	1,843,911	118,334	1,725,577	84,234	0	0	24,100	10,000	
7．農　業	460,892	460,895	271,808	189,087	160,800	0	0	110,458	550	利息(¥3)
8．工　業	587,529	587,529	171,648	415,881	81,648	0	0	90,000	0	
9．商　業	190,000	190,000	190,000	0	90,000	0	0	100,000	0	
10．水　産	304,314	304,314	158,566	145,748	34,110	0	88,706	35,750	0	
11．家庭科	582,963	552,963	192,963	360,000	93,003	0	0	99,960	0	助成金減額（△¥30,000）
12．保健体育	800,729	800,729	89,219	711,510	89,219	0	0	0	0	
13．生徒指導	527,459	527,459	221,812	305,647	123,518	3,969	0	94,325	0	
14．図書館	455,238	455,238	22,002	433,236	22,002	0	0	0	0	
15．視聴覚	259,602	259,602	165,690	93,912	15,822	85,928	16,500	44,000	3,440	
16．定　通	836,806	836,806	319,851	516,955	54,470	140,966	0	124,415	0	
本部関係	94,240	94,240	44,037	50,203	0	0	0	0	44,037	
予備費	100,000	124,018	0	124,018	0	0	0	0	0	追加会費＋本部利息増加分を増額
合　計	10,308,437	10,302,459	2,957,831	7,344,628	1,357,527	230,863	105,206	1,206,208	58,027	

II 費目別

区分	当初予算額	最終予算額(a)	決算額(b)	次年度積立金(a-b)	摘要
1．研究大会費	3,008,692	3,008,692	1,357,527	1,651,165	
謝金	713,399	713,399	335,667	377,732	
旅費	486,580	486,580	68,234	418,346	
使用料及び賃借料	581,780	581,780	196,825	384,955	会場使用料・設備使用料等
資料費	385,187	385,187	225,941	159,246	
通信運搬費	474,982	474,982	310,515	164,467	切手，送料，手数料等
賃金	170,000	170,000	136,238	33,762	テープ起こし
会議費	196,764	196,764	84,107	112,657	茶，茶菓子，講師弁当等
2．研究調査費	344,700	344,700	230,863	113,837	
資料費	108,200	108,200	81,828	26,372	
通信運搬費	124,500	124,500	140,966	△ 16,466	
会議費	112,000	112,000	8,069	103,931	
3．研究図書購入費	153,894	153,894	105,206	48,688	
4．研究成果刊行費	1,847,790	1,847,790	1,206,208	641,582	
5．その他	4,759,121	4,759,121	13,990	4,745,131	
6．本部関係費	94,240	94,240	44,037	50,203	
事務費	64,240	64,240	38,537	25,703	通信費
会議費	10,000	10,000	0	10,000	
刊行費	20,000	20,000	5,500	14,500	コピー用紙，製本代
7．予備費	100,000	94,022	0	94,022	※当初予算額からの変動分を調整 (△¥5,978)
合計	10,308,437	10,302,459	2,957,831	7,344,628	

収入決算額	10,302,459
支出決算額	2,957,831
次年度繰り越し	7,344,628 (各部会次年度積立金含む)

令和3年度　高等学校教育研究会役員

会　長	勝山　宏子　新潟南							
副会長	佐藤　一彦　新潟中央				灰野　正宏　新発田			
	鈴木　勇二　長　岡				加藤　徹男　高　田			
	遠間　春彦　佐　渡							
顧　問	市川　亮　新　潟							
部　会								
No. 部会名	部　長	副　部　長						部会幹事
1 国語	北岸　信治 巻	坂元　淳子 新潟中央	小竹　聖一 新発田南	萱森　茂樹 燕中等	川上　豪 国際情報			近藤　美里 巻
2 地歴公民	遠間　春彦 佐渡	君　伸一郎 新発田商業	早川　勝志 長岡農業	梶　良成 小出	山田　喜昭 六日町			中村　崇志 新潟向陽
3 数学	内田　卓利 三条	横堀　正晴 新潟北	吉田　保夫 村上中等	渡邊　治夫 三条東	小林　英明 津南中等	吉川　保 柏崎		神崎　直利 三条
4 理科	岩崎　啓 松代	小林　浩人 糸魚川	伊藤　大助 高田農業	小見　浩之 長岡大手	今井　圭 新津			南雲　真 松代
5 芸術	小堺　さとみ 川西高等特別支援	小野　由紀子 新潟西	山下　幸治 柏崎総合					(音)土田利枝子 三条東 (美)中條由美 上越総合技術 (書)伊藤優一 中越
6 英語	保坂　哲 西新発田	池田　匡 新潟商業	平山　剛 阿賀黎明	池上　宗継 長岡向陵	石積　希 直江津中等	名川　由里子 高田北城		長谷川　誠 高田
7 農業	椎谷　一幸 加茂農林	長田　裕 新発田農業	早川　勝志 長岡農業	村山　和彦 柏崎総合	伊藤　大助 高田農業			廣瀬　久人 加茂農林
8 工業	髙橋　俊司 長岡工業	住吉　宏 新津工業	堀内　義博 新潟県央工業	中川　誠一 上越総合技術				徳田　仁 長岡工業
9 商業	仲野　孝 新潟商業	君　伸一郎 新発田商業	大島　博文 長岡商業	桐原　宏史 高田商業				釜田　浩文 新潟商業
10 水産	増田　てつ志 海洋	山崎　勇 海洋						新井　清久 海洋
11 家庭	山本　久 長岡大手	小林　麻利子 新潟翠江	丸山　綾子 荒川	奥田　優 柏崎常盤				小田　真由美 長岡大手
12 保健体育	森川　幸彦 十日町	岩井　智之 新津南	薄　一俊 長岡明徳	藤澤　裕二 十日町(定)	水野　宏志 正徳館			髙橋　広文 十日町(定)
13 生徒指導	北岸　信治 巻	須藤　浩 村松	大國　隆彦 栃尾	伊藤　大助 高田農業	小林　皇司 羽茂			鈴木　健太郎 巻
14 図書館	菊池　啓一 塩沢商工	君　伸一郎 新発田商業	榊　厚志 糸魚川白嶺	遠間　春彦 佐渡				戸田　美由起 塩沢商工
15 視聴覚	横堀　真弓 五泉	須藤　浩 村松						野村　信夫 新発田農業
16 定通	小林　麻利子 新潟翠江	丸山　綾子 荒川	薄　一俊 長岡明徳	諸橋　孝二 高田南城	遠間　春彦 佐渡(相川)	神田　正俊 開志学園		桑原　文博 新潟翠江(定)

(敬称略)

会計監査委員	池田　匡 新潟商業	中川　秀太 市立明鏡	髙橋　周之 新潟東				
事務局 (新潟南)	小熊　直子	近藤　聡子	村中　由美子	山賀　統子	齋藤　和仁	小武　鉄平	鈴木　めぐみ

委員及び会員数

地区	学番	学校名	委員氏名	人数
新潟	1	新潟	松井　武文	48
	2	新潟中央	吉田　昌生	35
	3	新潟南	小熊　直子	21
	4	新潟江南	小日向　史	9
	5	新潟西	渡邊　優子	11
	6	新潟東	高橋　周之	12
	7	新潟北	佐藤　俊	5
	8	新潟工業	藤澤　満	38
	9	新潟商業	神蔵　紀明	22
	10	新潟向陽	柳澤　裕一	13
	11	新潟翠江(定)	桑原　文博	15
	11	新潟翠江(通)	浦部　頼之	8
	12	巻	岡田　淳	25
	13	巻総合	柴宮　秀生	17
	14	豊栄	加納　直恵	5
	15	新津	今井　圭	18
	16	新津工業	笠原　正博	13
	17	新津南	入倉　哲志	3
	18	白根	富田　紀男	5
	市1	万代	鹿俣　譲	19
	市2	明鏡	中川　秀太	16
	市中等1	高志中等	田中　俊彦	7
	特1	新潟盲		0
	特2	新潟聾		0
	特15	東新潟特別支援		0
	私1	新潟明訓	内野　信昭	65
	私2	北越	舩木　和久	25
	私3	新潟青陵	富田　学	11
	私5	敬和学園	浅妻　和章	1
	私6	新潟第一	宮田　佳則	16
	私7	東京学館新潟	飯田　昭男	60
	私8	日本文理	星野　透	9
	私17	開志学園	小嶋　健慈	4
五泉・新発田	19	五泉	渡辺　昭彦	10
	20	村松	射場　政人	2
	21	阿賀黎明	本保　正佳	4
	22	新発田	斎藤　直人	21
	23	西新発田	馬場　宏	5
	24	新発田南	井上　幸一郎	28
	25	新発田農業	石田　清彦	26
	26	新発田商業	梅田　均	10
	27	村上	渡邊　幸晴	12
	28	村上桜ヶ丘	櫻井　武史	11
	29	荒川	真貝　康広	13
	30	中条	高見　由光	8
	31	阿賀野	荻野　美和子	7
	特8	村上特別支援		0
	私12	新発田中央	上山　裕二	10
	私13	開志国際		0
	中等1	村上中等	鈴木　信行	8

地区	学番	学校名	委員氏名	人数
長岡	32	長岡	藤田　純子	22
	33	長岡大手	荒井　美鈴	22
	34	長岡向陵	池上　宗継	8
	35	長岡明徳	阿部　英敬	13
	36	長岡農業	熊木　秀徳	29
	37	長岡工業	小池　茂樹	21
	38	長岡商業	加藤　伸泰	10
	39	正徳館	水野　宏志	5
	40	栃尾	波多野　隆	11
	41	見附	髙野　大	9
	特3	長岡聾	浅野　由利	4
	私9	帝京長岡	小熊　牧久	9
	私10	中越	竹内　拓	14
	私19	長岡英智	岩下　隆志	15
三条	42	三条	横尾　則幸	15
	43	三条東	西村　健一	12
	44	新潟県央工業	大倉　守正	22
	45	三条商業	瀧澤　琢也	4
	46	吉田	関澤　徹	8
	47	分水	佐藤　綱雄	3
	48	加茂	松縄　恒彦	7
	49	加茂農林	阿部　愼	39
	中等3	燕中等	本間　康一	14
	私11	加茂暁星	山本　泰裕	15
	特20	吉田特別支援	片桐　隆	1
魚沼	50	小千谷	長浜　力也	11
	51	小千谷西	徳永　美智子	18
	52	堀之内	行方　美幸	11
	53	小出	鈴木　健一	5
	54	国際情報	立川　純	11
	55	六日町	佐藤　直之	8
	56	八海	鈴木　春樹	9
	57	塩沢商工	竹内　努	10
	58	十日町	藤澤　裕二	16
	58	松之山分校	渡辺　新太郎	2
	59	十日町総合	坂口　和成	17
	60	松代	佐藤　一正	5
	中等4	津南中等	鈴木　綾乃	12
	特6	川西特別支援	小堺　さとみ	1

地区	学番	学校名	委員氏名	人数
柏崎	61	柏崎	南方　伸之	13
	62	柏崎常盤	永井　大円	7
	63	柏崎総合	山下　幸治	11
	64	柏崎工業	宮澤　雅樹	11
	65	出雲崎	安澤　和晃	5
	私14	新潟産大付属	髙倉　聡	9
	中等2	柏崎翔洋中等	千葉　知樹	9
上越	66	高田	羽二生　大輔	25
	66	高田　安塚分校	沢田　貴博	2
	67	高田北城	名川　由里子	24
	68	高田南城(定)	最所　順之	5
	68	高田南城(通)	菅　一典	3
	69	高田農業	山口　活水	22
	70	上越総合技術	矢代　譲	27
	71	高田商業	佐藤　直人	7
	72	久比岐	矢坂　英也	3
	73	有恒	西川　昌宏	3
	74	新井	内山　崇	11
	75	糸魚川	太田　修	6
	76	糸魚川白嶺	青山　淳	13
	77	海洋	山崎　勇	18
	中等5	直江津中等	楫　貴志	9
	私15	上越	風間　秀行	8
	私16	関根学園	西嶋　俊文	12
佐渡	78	佐渡	川上　史人	15
	78	相川分校	志賀　大介	5
	79	羽茂	早川　昌	8
	80	佐渡総合	近藤　美津子	19
	中等6	佐渡中等	馬場　隆史	12
行政	行2	県立教育センター		22
		高等学校教育課		25
		保健体育課		7
		生徒指導課		6
		文化行政課		1
合計				1582

(R4.3.8 現在)

部会幹事および部会員数

No.	部会名	部会幹事		会員数	No.	部会名	部会幹事		会員数
1	国語	近藤 美里	巻	148	8	工業	徳田 仁	長岡工業	133
2	地歴公民	中村 崇史	新潟向陽	152	9	商業	釜田 浩文	新潟商業	77
3	数学	神﨑 直利	三条	219	10	水産	新井 清久	海洋	86
4	理科	南雲 真	松代	177	11	家庭	小田 真由美	長岡大手	119
5	芸術	(音)土田 利枝子	三条東	56	12	保健体育	髙橋 広文	十日町(定)	109
		(美)中條 由美	上越総合技術		13	生徒指導	鈴木 健太郎	巻	209
		(書)伊藤 優一	中越		14	図書館	戸田 美由紀	塩沢商工	50
6	英語	長谷川 誠	高田	243	15	視聴覚	野村 信夫	新発田農業	21
7	農業	廣瀬 久人	加茂農林	136	16	定通	桑原 文博	新潟翠江(定)	168

会計監査委員

新潟商業	市立明鏡	新潟東
池田 匡	中川 秀太	髙橋 周之

事務局幹事

新潟南		
小熊 直子	近藤 聡子	村中 由美子
山賀 統子	齋藤 和仁	小武 鉄平
鈴木 めぐみ		

新潟県高等学校教育研究会規約

第1章　総　　則

第 1条　この会は、新潟県高等学校教育研究会といい、事務局を会長在任校におく。

第 2条　この会は、新潟県の高等学校教育を振興発展させることを目的とする。

第 3条　この会は、前条の目的を達成するために、下記の事業を行う。

1．高等学校教育に関する調査研究

2．研究協議会・講習会・講演会・展覧会等の開催、研究誌・機関紙の発行

3．会員の研究に対する援助

4．その他この会の目的達成に必要な事項

第2章　組　　織

第 4条　この会は、新潟県にある高等学校の教職員およびこれに準ずるもので組織し、次の部会をおく。

1．国語部会　　2．地理歴史・公民部会　　3．数学部会

4．理科部会　　5．芸術部会　　6．英語部会

7．農業部会　　8．工業部会　　9．商業部会

10．水産部会　　11．家庭科部会　　12．保健体育部会

13．情報部会　　14．生徒指導部会　　15．図書館部会

16．視聴覚部会　　17．定通部会

第3章　機　　関

第 5条　この会は、次の機関をおく。

1．理事会　　2．委員会　　3．部長会　　4．部会委員会

第 6条　理事会は、この会の決定機関であって、次のことを決める。

1．規約の決定並びに改正に関すること。

2．事業計画に関すること。

3．予算の決定、決算の承認に関すること。

4．財産および基金の処分に関すること。

5．役員の決定に関すること。
6．他団体への加入脱退に関すること。
7．この会の解散に関すること。
8．その他必要な事項に関すること。

第 7条　理事会は、理事で構成し、毎年開催する。臨時理事会は、会長が必要と認めたとき、会長が招集する。

第 8条　理事には、会長・副会長・各部会の部長１名および理事会で必要と認めた若干名がなる。

第 9条　委員会は、この会の執行機関であって、次の任務権限を持つ。
1．理事会から委任された事項の審議執行に関すること。
2．理事会に提出する議案に関すること。
3．緊急事項の処理に関すること。

第10条　委員会は、委員で構成し、毎年開催する。臨時委員会は、会長が必要と認めたとき、会長が招集する。

第11条　委員会の議長は、そのつど構成員の中から選出する。

第12条　部長会は、連絡機関であって、理事会と各部会および部会相互間の連絡にあたる。

第13条　委員会および部長会は、委任状を持参した代理人を認める。

第14条　理事会・委員会・部長会の会議は、構成員の２分の１以上の出席で成立する。

第15条　部会委員会は、部長・副部長・部会幹事および校内部会代表をもって構成する。

第16条　部会委員会は次の任務権限をもつ。
1．専門的事項について調査研究する。
2．専門的事項について委員会に提案する。
3．専門的事項についての業務を執行する。

第17条　部会委員会は、必要に応じ、会長に連絡して、部長が招集する。

第18条　部会は、必要により、学科または科目別あるいは地区別に分会を設けることができる。

第19条　部会の細則は、各部会ごとに作成して会長に届け、委員会の承認を得るものとする。

第４章　役　　員

第20条　この会には、次の役員をおく。

1．会長	１名	2．副会長	５名
3．部長	各１名	4．副部長	若干名
5．理事		6．委員	各校１名
7．会計監査委員	３名	8．幹事	若干名
9．部会幹事	各１名	10．校内部会代表	各校内の部会各１名
11．顧問			

第21条　役員の任務権限は、次の通りである。

1．会長は、この会を代表し、会務執行の責任を負う。
2．副会長は、会長を補佐し、会長事故あるときはその任を行う。
3．部長は、その部会を代表し、部会の業務を統理する。
4．副部長は、部長を補佐し、部長事故あるときはその任を行い、各地区別部会との連絡にあたる。
5．理事は第６条によりその任を遂行する。
6．委員は、各校内の意見を代表し、第９条によりその任を遂行する。
7．会計監査委員は、会計を監査し、委員会に報告する。
8．幹事は、この会の事務を処理する。
9．部会幹事は、各部会の事務を処理する。
10．校内部会代表は、各校内部会の事務を処理する。
11．顧問は、会長の諮問に応ずる。

第22条　役員の選出法は、次の通りとする。
1．会長・副会長・部長・副部長は、理事会で会員の中から推薦し、委員会で承認する。
2．その他の理事は、必要により理事会で推薦し、委員会で承認する。
3．委員は、各学校から１名選挙する。
4．会計監査委員は、委員会で互選する。
5．幹事は、委員会の承認を経て会長が委嘱する。
6．部会幹事は、各部会の推薦により、会長が委嘱する。
7．校内部会代表は、各校内部会で互選する。
8．顧問は、委員会の推薦を経て会長が委嘱する。

第23条　役員の任期は、２年とし、次期改選まではその任を行い、重任してもよい。
欠員の補充で就任した者の任期は、前任者の残りの期間とする。

第５章　会　　計

第24条　この会の経費は、会費・補助金・寄付金等による。ただし、寄付金および寄付物件の受理は、委員会の承認を要する。
会費は、毎年５月１日までに各学校ごとに委員がまとめ、部会別会員名簿をそえて事務局に送付するものとする。

第25条　この会の会計年度は、毎年４月１日に始まり翌年３月31日に終わる。

第６章　雑　　則

第26条　この会に入会しようとするときは、所属部会を明記し、各学校ごとにまとめて、会長に通告する。

第27条　この会の規約を実施するに必要な規定は、別に定める。

第7章　附　　則

第28条　この規約は昭和23年10月15日から実施する。

2．昭和61年6月　9日改正施行する。

3．平成　2年6月　8日改正施行する。

4．平成　7年5月31日改正施行する。

5．平成23年6月17日改正施行する。

6．平成24年6月22日改正施行する。

7．令和　元年5月27日改正施行する。

8．令和　3年11月1日改正施行する。

事務局日誌抄

日付			
令和３年	4月1日	令和3年度新潟県高等学校教育研究会役員交代・補充について（依頼）	メールにて送付
	4月1日	令和3年度高教研会員募集について	メールにて送付
	4月1日	部会会計の取扱要領について（お知らせ）	メールにて送付
	4月5日	新潟県高等学校教育研究会会計監査委員の派遣について（依頼）	メールにて送付
	4月6日	令和3年度高教研会員募集に係る振込依頼書の発送	募集案内校へ郵送
	4月13日	新潟県高等学校教育研究会監査について（依頼）	メールにて送付
	4月20日	令和２年の県高等学校教育研究会会計監査の実施	本校応接室にて開催
	4月27日	県高教研理事会の開催について	メールにて送付
	5月7日	公益財団法人　日本教育公務員弘済会新潟支部へ令和３年度「教育研究団体助成事業申請書」の送付	郵送にて申請
	5月18日	令和3年度高教研理事会審議	書面開催文書（メールにて送付）
	5月24日	令和３年度高教研名簿の発送	メールにて送付
	5月26日	理事会再審議について	メールにて送付
	5月26日	一般財団法人　新潟県教職員厚生財団より４００，０００円の助成	
	5月28日	一般財団法人　新潟県教職員厚生財団へ「令和２年度団体助成完了報告書」の送付	郵送により報告
	5月31日	令和3年度高教研委員会審議	書面開催文書（メールにて送付）
	6月1日	高教研年報60号送付	行政、理事宛に郵送
	6月3日	令和3年度高教研審議結果及び運営に係る報告	メールにて送付
	6月3日	令和３年度高教研審議結果（報告）	メールにて送付
	6月7日	令和3年度高教研部会幹事連絡会に係る資料の送付	幹事業務文書・書類（郵送）
	7月21日	公益財団法人　新潟県教育公務員弘済会より２５０，０００円の助成	
	8月3日	ICTの活用における教材や資料の蓄積と共有について（依頼）	メールにて送付
	9月15日	一般財団法人　新潟県教職員厚生財団へ「令和４年度団体助成申請書」の送付	郵送にて申請
	9月7日	令和3年度高教研理事会の開催について	メールにて送付
	9月22日	令和３年度高教研三役会の開催について	メールにて送付
	9月27日	令和３年度高教研三役会（オンライン会議）の開催	オンライン会議
	10月1日	令和３年度高教研理事会（オンライン会議）の開催	オンライン会議
	10月6日	理事会（10/6）に係る審議結果報告	メールにて送付
	10月8日	令和３年度高教研委員会の開催について	メールにて送付
	10月22日	令和３年度高教研委員会（オンライン会議）の開催	オンライン会議
	10月29日	委員会（10/22）に係る審議結果報告	メールにて送付
	11月2日	令和3年度高教研理事会・委員会に係る報告	メールにて送付
	11月2日	「情報部会」役員推薦について（依頼）	メールにて送付
	11月9日	「情報部会」設立に伴う役員推薦について（依頼）	メールにて送付
	11月29日	「情報部会」設立に伴う役員推薦における審議結果について（報告）	メールにて送付
	11月29日	「情報部会」設立に伴う役員推薦係る委員会書面審議	メールにて送付
	12月3日	「情報部会」設立に伴う役員選出に係る報告	メールにて送付
令和４年	1月6日	年度末に係る部会事務処理に関して（依頼）	メールにて送付
	1月19日	「第61回関東甲信越静地区造形教育研究会 兼　第34回新潟県美術教育研究大会」後援申請の回答	回答書を郵送
	1月24日	令和４年度「情報部会」運営に係る準備について（依頼）	メールにて送付
	2月15日	一般財団法人　新潟県教職員厚生財団より令和4年の「団体事業助成」承認の通知を受領	
	2月18日	公益財団法人　日本教育公務員弘済会新潟支部へ令和３年度「教育研究団体助成事業報告」の送付	郵送により報告
	2月下旬	『高教研年報』第６１号の編集作業に着手	
	3月15日	令和４年度役員（部長・副部長）および幹事推薦に関して（準備依頼）	メールにて送付

（文責　県立新潟南高等学校　教頭　小熊　直子）

編集後記

令和３年度の高教研の活動をまとめた「高教研年報第 61 号」をお届けいたします。

令和２年１月に初めて国内における新型コロナウイルスの感染報告がなされてから２年が過ぎますが、未だ新型コロナウイルス感染症の収束は見えておりません。

このような状況の中、各部会におかれては、高教研の目的を遂行すべく、各部会の特性を踏まえ、また感染の拡大状況を見極めながら、リモートを活用するなど、多様な手法により研究・協議を実施していただきました。このことは各部の部長様、副部長様をはじめ関係の皆様の御尽力があったからと、改めて感謝申し上げます。

また、今年度は令和４年度に向け、「情報部会」の新設、「高教研規約」の改正など、事務局における改正も進めさせていただきました。このことにつきましても、皆様の御理解と御協力いただきましたことに改めまして感謝申し上げます。

令和４年度から年次進行で新学習指導要領が実施されますが、この内容は、まさしく加速度的に変化する世の中において、目の前にいる生徒が今後生きる世界は、予測すること自体が困難とされるものであることを見据えたものです。新型コロナウイルス感染症パンデミック下において、今私たちは身をもって「予測困難な中において何が必要で、何を為すべきなのか」を問われ、考え、対応していると言えます。

本会の役割は、変化する教育課題に対応しながら、新たな指導内容や指導方法といった教育の専門分野について、会員相互の情報交換や研修をとおして研究するものです。ですから、この経験を踏まえての本会の研究活動や成果は、大変大きく重要となるものと考えます。

この年報は全部会の活動を掲載しております。探究的な学習やＩＣＴの活用など、多様な取組が深まりを見せる中、自身の取組の参考としていただくとともに、この高教研各部会の取組を一人でも多くの方々にお伝えいただき、高教研会員の裾野をさらに広げていって欲しいと思います。なお、年報は新潟県高等学校教育研究会ホームページにも掲載いたしますので、どうぞ御活用ください。

末筆になりますが、今年度も一般財団法人新潟県教職員厚生財団様及び公益財団法人日本教育公務員弘済会新潟支部様から研究費として御支援をいただき、各部会の研究の充実に充てさせていただいております。紙面を借りて感謝申し上げます。

今年度の高教研の運営に御尽力くださった各部長様、副部長様、関係の皆様方に深く感謝申し上げるとともに、本県高等学校の更なる発展を祈念して編集後記といたします。